



豊田中だより

令和3年12月23日(木)

冬休み直前号

横浜市立豊田中学校

〒244-0815 横浜市戸塚区下倉田町950番地 ☎ 045-864-8640

「あの日から十年 みなさんに話したいこと」

～創立50周年記念「和合亮一先生講演会」～

校長 上田 篤也

創立50周年記念事業として、和合先生に記念曲の作詞と講演会をお願いしました。快くお引き受けいただいてから、ちょうど2年、ようやく今回の講演会の実現となりました。東日本大震災は10年前のことですので、現在中学生のみなさんにとっては、その時の記憶があまりないであろうこともあり、事前学習として、東日本大震災直後の映像や被災されたみなさんが、この10年間でどのような道を歩んでこられたのか、今どのように生きていらっしゃるのかなどの映像を観て、東日本大震災についての認識を深めるようにしました。また、福島で被災直後に和合先生がツイッターで詩を発信されていることについて、当時話題になっていたことの映像も拝見しました。

今回の講演会もリモートで行いました。以下、その内容をお伝えします。

- 震災から10年が経ち、加えてコロナ禍で、みなさんは様々に悩んだり苦しんでいることがあるかと思えます。どんなときも悔いを残さないような生き方、二度とない青春を大切にしてほしいことをお伝えしていきたいと思えます。以前に取材をさせていただいた時のこと、みなさんのことを思い浮かべながら、50周年の歌を作らせていただきました。作詞した詩のことを思い浮かべながら、横浜の豊田中学校の生徒のみなさんのことを思っていました。
- まず「なんとなく」ということをなくしてほしいと思っています。「なんとなく嫌だ」「なんとなく怖い」「なんとなく反対」そうした「なんとなく」をなくすには、正しく知ってほしい、事実を勉強してほしいと思っています。これまでのことを振り返るとその「なんとなく」と戦ってきたような気がします。この10年、なんとなく不安だ、嫌だということがあって、福島の食べ物やお米が売れていません。科学的にはそうしたことがないのですが、放射能の影響があるのではないかということで、全然売れていなかったり10分の1ほどの値段で売り買いされたりと、福島では10年経っても風評被害の現実があります。そうしたことをもう一度調べて知って、分かち合っほしいなと思っています。
- 風にはいろいろな意味があって、新しい風を吹かせるとかよい風が吹いてきたなどと使われますが、この風評被害は悪い風です。根拠がなくて実態もなく、ただ人々を不安にさせたり、怖がらせたり、嫌な思いをさせたり、そうしたもとのない噂話が広がって、米、野菜、魚などの福島の産物が今も安い値段で売り買いされている現実があります。飯館村(原発近く)の農家さんがつくっているそばがあります。そばは福島の名産の一つです。その農家さんは10分の1で売り買いされていても未だにそばを育て続けています。どうしてかというと、そこでそばを育てなければ、1年も2年も放っておけばその土地がだめになってしまう。もうけがなくても、損することが多くても故郷の土地を守るため、今もそば農家を営んでいます。農業をやっている人や漁業をやっている人、いろいろな方がその仕事をやり続けています。それは、故郷の土地を守るために、故郷の海を守るために、人が手を加えなければもっとだめになってしまう。そんな思いでやっている人が多いのです。そんな方たちとお会いしていろいろなことを思った10年でした。
- だからこそ、繰り返しになりますが、なんとなく怖い、なんとなく嫌だと思うことはたくさんあると思えます。このコロナ禍の現実にあっても、そう思って暮らしているのではないかと思います。実際、予防は大切です。よく調べてよく知ってよくそれを分かち合うことで「なんとなく」がなくなった時に、心配や不安がだんだんと自分たちの中で消えていって、そしてこれからはこういうふう生きていこう、こんな風に考えていこうということが見えてくるのかなと思っています。

- 中学校の時は剣道、高校の時は演劇をやっていましたが、今ふり返るとなんとなく一つのことに打ち込めませんでした。何かをやってみたいけど、何ができるのか見付からない時に、文化祭で「銀閣寺をつくる」という企画に学級委員長として中心になって取り組みました。その時に、自分は何かを作るのが好きなんだということに気が付きました。また、「人は何で生きているんだろう」「人は何で勉強するんだろう」「人は何で仕事をしなくてはいけないんだろう」そして「これから自分はどんな人生を歩んでいけばよいのだろう」と深く悩みました。その時に、本を読み続け、言葉には力がある。文字には力がある。何か自分を導いてくれる力が本の中に、言葉の中にはあるんだなと思いました。
- 青春時代、いろいろな失敗をしましたがそれでよかったと思っています。そうしたところがあって今気付かされていることがいっぱいあります。もちろん、みなさんにはいろいろなことに夢中になってほしいと思っています。でも、なかなか夢中にはなれなかったけど、自分は創作活動が好きだということが分かった。あるいはすごく悩んだことがあった。だけど、自分は本を読むことが好きなんだと分かった。こういふに、物事には必ずよいことと悪いことの二つあるのだと思います。悪いことだけを取りあげてしまうと落ち込んでしまいますが、よいことも別にあるのだということを探す、つまり物事には必ず二面性があります。そういうことを考えてほしいです。物事は悪いことばかりではありません。勉強で失敗しても、部活で負けても、次にまたやろうという気持ちにさせてくれる、なぜ駄目だったんだろうと思わせてくれる、物事にはそうした二面性があるわけです。今日1日、1週間、1ヶ月間、よかったことだけをノートや手帳に書いていくと、よいアイデアがひらめくことがあるのではないかと思います。
- 小学校3年生の大和田千聖くんの「ちさと、おせ。もっとおせ。」の詩の中で、「ちさと押せ、もっと押せ」の声がいつも聞こえる。心に刻まれていく。だからこの声を聞くと、何にでも頑張れる気がするという風に書かれている。校長先生や担任の先生や顧問の先生、お父さん、お母さん、おじいちゃんやおばあちゃん、お友だち。私はこういう声が聞こえるっていうのがとてもいい詩だなと思いましたし、大事なことなんだなと思うんです。私たちは声をかけ合って生きている。そしてその声の記憶があれば、何でも頑張れる、もっと頑張れるという気持ちになれる時があるんだなということをお伝えしました。
- この詩を読むと、この詩の世界に入っていきます。卵っていうのは、殻があって黄身があって白身があります。作品を読んでいると、頭の中に卵の殻のようなものができて、作品の中に入っていくことで殻の中に自分が入っているみたいな、そんな不思議な時間になることがあります。それを「卵の殻の時間」と自分では呼んでいます。忙しい毎日の中で、少しでも本を読んだり、音楽を聴いたりして、自分一人の時間で卵の殻をつくるような時間が一日に5分でも10分でもあると、この中で懐かしい声が聞こえてきたり、懐かしい思い出を甦らせたり、そういうことが人間はできると思います。みなさんも忙しいと思いますが、5分でも10分でも自分だけの時間を見つけてもらいたいなと思います。そんな風に自分の好きなものを見つけてもらえたらと願っています。
- 私は好きなものに出会って、周りの人たちに自分は詩人になると宣言しました。おもしろいとか、変わっているとか言われたこともあります。そこから、私は自分の中で闘いが始まりました。小林秀雄さんの言葉で「巧まずして変わり者であるような変わり者は、世間は、はっきり許す、愛しさえする。」というものがあります。巧まずしてというのはわざとではなく、自然に変わり者であるような変わり者、珍しい人であるような珍しい人、それは周りの人が許すし、愛しさえするという意味です。だから変わり者にどンドンなっていていいと思います。みんなと同じようにしなくてはいけないとか、みんなに話を合わせなくてはいけないとか、そういうつまらないことは考えなくていいと思います。一人ひとりが自分の好きなことを追いかけるような人生でいいと思います。変わり者に自分からどンドンなっていていけばいいと思います。社会では周りの人に合わせて生きていかなければならない面もあるかもしれませんが、自分をちゃんともってればいい、好きなものをちゃんともってれば周りが必ず認めてくれる。そんな人生を大事にしてほしいなと思っています。
- 私は詩が好きで、文学が好きで、いろいろな作品を読んでいく中で、東日本大震災に見舞われました。10年前の3月11日午後2時46分、体験したことのない地震に襲われました。津波での被害、原発の爆発を受けての避難、そうしたことを短い時間の中で味わいました。震災から5日後、ツイッターで詩を書いて地震の中でずっと書き続けて、1ヶ月近く書き続けて、それでも読んでくださる方がたくさんいたので、3ヶ月毎晩毎晩書き続けました。

- そうした中で、気仙沼の避難所で小学校5年生の男の子が書いた「ありがとう」という詩に出会いました。たくさんボランティアの支援の手やたくさん支援物資が届いて、それで何とか助かったという気持ちで詩を書いたのです。「ありがとう」という言葉がずっと続いています。一番最後の「ありがとう」だけ違います。気仙沼で暮らしていた菊池くんのおじいちゃんが波にさらわれて行方不明になって、そして暫くしておじいちゃんが見付かりました。ご遺体が見付かって、初めてさよならすることができました。「ありがとう」って。帰ってきて初めてやっとご遺体を見ることができて、初めて悲しく寂しくなることができる。波にさらわれて行方不明の時は、どうしているんだろうとずっと思っています。残念ながらご遺体で戻ってきた時に、そのご遺体を見て、これでやっと寂しく悲しくなれる。寂しい悲しいという感情でさえもつことができない、これが10年前の東日本大震災の現実であったと思います。
- 震災10年になって、今年初めに思ったことは、10年ってものすごく長い歳月だと思ふんですけど、私にとってはある意味あつという間であったし、ある意味とても深い毎日だったなと思います。それで10年が経って毎朝思っていたことは、今もまだ行方不明のまま、海に眠っている教え子や知人がいることです。その波にさらわれた人々は、私たちが10歳年を取ったけれども、教え子や友人はその年齢のままです。10歳年が若いままなんだなと思います。行方不明のままです。見付かることを祈っています。
- 東日本大震災の後に熊本でも大きな震災が起きました。熊本に行って、状況、情景が東日本大震災と重なりました。いろいろなことを思い出したし、東日本大震災の風景がそのまま熊本にあると思いました。熊本の阿蘇に大橋という橋があって、その橋が地震の時に橋もろとも谷底に落ちてしまいました。車がずっと橋に並んでいましたが、全部谷底に落ちてしまいました。一人の成人したばかりのお子さんがこの大橋で車に乗っていて、地震に見舞われ、橋とともに谷底に落ちてしまって未だに見付かっていない状況でした。捜索隊が下に降りて探しましたが、全く見付からない。谷底はたいへん陰しく捜索は困難を極めました。捜索が打ち切られても、その成人した男性のご両親はどうしても諦めることができず、二人でロープをかけて谷底まで降り捜索を続けたそうです。そして、かなり下流の方で息子さんの車とご遺体が見付かりました。深い谷底に毎日毎日降りていったご両親の気持ち、決して諦めることができず、無理なんじゃないか、難しいんじゃないかと思っても決して諦めない。本当に息子さんが死んだという事実に向き合えない、息子さんのことを思って、誰も近寄らない谷底に、どんな気持ちで両親は降りていったのか、そんなことを阿蘇の大橋で谷底を見ながら思いました。
- 私の教え子は警察官でした。地震があって津波がきた時に、富岡の町で仕事をしていました。一生懸命に避難を呼びかけて、そして最後に波にさらわれてしまいました。高校を卒業して警察官になったばかり、その彼が一生懸命にいろいろな人を助けて、自分は波にさらわれてしまいました。今もなおご両親は戻ってくることを信じています。しかし、最近どうしても息子の帰りを待つのが辛くて、夜も眠れなくて、そんな時にこう思うと教えてくれました。息子は小さい頃から警察官になろうと思っていた。そして今も姿は見付からないけれど、どこか他の家で生まれ変わって、そして警察官になるための勉強を始めているに違いない。あんなに小さい頃から警察官になりたいと言っていた私の息子だから、違う家の子どもになって警察官になるための勉強をしている。そんな風に思うと、眠れない気持ちも苦しい気持ちも少し軽くなると仰っていました。私はこう考えました。学ぶということは、勉強するということは、生きるということは、その人そのものなんだと、だから私の教え子も、もし本当に生まれ変わっているのなら、もう一度自分の夢を追いかけているに違いない。そんな風に思って、学ぶということの意味を彼に教えてもらったような気持ちになっています。ここに、今年彼に捧げた春に書いた詩があります。「光の走者」という詩です。
- 今日は50周年の記念講演として呼んでいただきありがとうございます。みなさんの青春の時を福島から思い浮かべながら、そして中学校の仲間を学び舎を思い浮かべながら、福島からみなさんに祈りを込めてこれからも暮らしていきたいと思っています。それぞれ今は青春時代を卵の殻の中で生きている時だと思いますが、そこをコツコツと叩いて卵の殻を破るようにして、これからの人生を一步一步歩いてもらいたいと思います。たくさんの方に支えられている人生です。だからこそ、たくさんの方を支えるような人生を歩んでください。また機会がありましたら、続きを話させてください。今日はありがとうございました。

《和合先生への質問》

- 1 今回、震災直後に和合先生が福島に残られる決断をされたことを事前学習で知りました。ご家族と別れる時にたいへん辛かったのではないですか。また、奥様は残ることに反対されたのではないですか。連絡を取り合うことができたのですか。ご家族のみなさんは、今お元気ですか。

妻と息子は1ヶ月後に戻ってきました。1ヶ月は避難していました。この10年、家族は元気に暮らしています。家族と別れる時は本当に辛くて、今を生きると書いて今生(こんじょう)と読みますが、今生の別れ、もう二度と会えないのではないかと思います。震災直後はそういう風に思っていました。放射線量のことだって、もう福島には人は戻ってこないんじゃないかなという気持ちもありました。家族が戻ってきた時には、すごくホッとしました。息子は当時6年生で、卒業式、入学式がありませんでした。それでも、息子が「やっぱり福島で暮らしていきたい」という決意をもちました。すごく息子に励まされた思いがありました。そのあと、まだまだ進んでいませんが少しずつ福島が復興に向かって歩んでいる、そういう10年の姿を、私もそうですが息子もずっと見てきていて、今は演劇の勉強を東京でしています。

- 2 質問の中でたいへんに多かったのが、震災直後どうしてツイッターで発信されたのですか。また、ツイッターを利用してよかったなと思うことがありましたか。

これは僕自身も意外中の意外で、今日は銀閣寺を作った話とか、読書をして涙が出た話とか色々しましたが、それと同じような意外がありました。ツイッターってそもそも自分は苦手で、みなさんの方が得意であろうと思います。だけど、ツイッターをやってみようと思って、そのきっかけは、その場で自分の思っていること、つまり震災直後で地震で揺られながら、その時に思ったことをリアルタイムでそのまま伝えることができる、これが雑誌とか新聞とかであると、すぐにアップすることはできない。ホームページでもできますが、そんなにみなさんが見るわけではない。だけどツイッターはリアルタイムに起きたことをそのまま伝えることができる。今も地震が起き、今地震が起きましたと書くと、日本全国のみなさんが大丈夫ですかと連絡をくれるし、反対に地震があったことを聞くと私自身が大丈夫ですかと発信できるし、そういうキャッチボールができると思います。私自身もたくさんのメッセージをいただきました。1ヶ月近く毎日地震に揺られていましたけども、そのみなさんからもらったメッセージで自分を励ますことができました。だから、ツイッターっていろいろ使い方があるし、みなさんも興味があると思いますが、人を励ますために使ってもらいたいなというも思っています。私は、この時にツイッターで励まされましたし、今も励まされています。

- 3 先生が詩を書かれている時に涙が出たり、悔しさが込み上げてきたり、詩を書くことを中断したりしたことがありますか。落ち着いた精神状態で詩をつくることができるのですか。

これは不思議なんですけど、涙が先に出してしまうとか、書いている時に涙が出てしまうということはありません。それが必ずしもよい作品になるとか、その後、みなさんに読んでもらえる作品になるかは一致しません。私は非常に涙もろい人間なので、書いて涙が出てしまっただけで書けなくなったということもあります。必ずしも泣きながら書いたものもいいものでもなかったりします。反対に落ち着いて悲しいことを書いたりすることもあります。詩を書く時には閃くことがあります。こういうものを書こうという。みなさんも何か文章を書いたり、先生の話をお聴きして閃く時があるのではないかと思います。その閃くというのは、頭の中にパッと光が射すような感じなんです。それを「ルミナス」という風に呼んでいます。「ルミナス」の瞬間をすごく大事にしたいと考えています。閃きは一瞬なんですけど、自分に何かを教えてくれるところがたくさんあります。ですから、涙も閃きも大切だと思います。あともう一つ、震災直後は福島のみなさん、とてもよく泣きました。しゃべっても泣くし、久しぶりに会っても泣くし、これは地震を体験し、心が特別な状態であったと思います。もつとと言うと、涙を流すっていうのは心を守ろうとしているのだと思います。だから、辛

いことがあっても泣くことを我慢している人が結構いると思いますが、どうぞ、泣いた方がいいと思います。泣くと自分の気持ちがはっきりするし、泣くと次のことが見えてくることのあるのではないかと思います。

4 最後の質問です。生徒からの文章をそのまま読みます。「私は「はるか はるか」が大好きです。はるかとかあなたの微妙に違うニュアンスや、豊田中の風景が思い浮かぶような歌詞が心にとてもしっくりきます。和合先生はどのような意味、思いを込めて作詞して下さったのですか。」

とても嬉しいです。作詞してよかったなと思いました。感謝したいです。すごく中学校の佇まいがとても素敵で、色々なことを感じ考えました。みなさんの姿だったり、みなさんのこれからの人生だったり、とても広がりのある景色と、とても豊かな季節を感じ、富士山が見えるという佇まいも素敵だし、先生と生徒のみなさんとの心のキャッチボールが見えてくるような印象をもちました。「はるか はるか」に一番に書きたかったのは、とても広がりある風景の中で、3年間みなさんは勉強するのだという事です。それを「風のまなびや」というふうに書かせてもらいました。これは、まなびやに風がふくということです。いつもまなびやには風が吹いている。風にはよい風と悪い風があって、福島は、震災から悪い風に苦しめられてきました。その悪い風こそは、憎むべき排除すべきであって、よい風はどんどん吹かせてほしい。むしろ、よい風こそが自分たちのまなびやにふさわしいのだと思ってほしい。よい風が吹いているという思いを「風のまなびや」と表現させてもらいました。そして、坂道がとても気に入りました。何回か登ったり降りたりしながら、「あー、この坂道を登ると、新しい何か、新しい明日が待っているんだな」と思いました。みなさんが毎日毎日登ってくる坂道に、必ず未来がある。その風景に親しんでもらって、親しみをずっともってもらって、ふるさとの横浜を愛してもらいたいし、新しい扉をもっともって開いてもらいたいなと思っています。

最後に、事前のアンケートに書かれた1年生女子のメッセージを紹介します。

「被災者の人たちや場所の様子を詩にして誰に伝えたかったのですか。自分では、この地震を体験していない人に伝えたかったのかなとか、この後、生まれた人たちにも伝えたかったのかなと思って詩を書いたと思いました。でも、自分も全然地震の大きさが分からないから、地震の起きた場所に住んでいる和合先生のお話が聞きたいです。被災地の人が感じたこと、体験したことを聞いて深く被災者のことを考えたいです。」

創立50周年記念曲「はるか はるか」 作詞 和合 亮一 作曲 大田 桜子

一 はるか はるか	二 かなた かなた	※ 光を
雲のきざしに	朝のひざしに	たすきを
かける坂道	のぼる坂道	バトンを
富士のやまぎわ	富士のそらぎわ	つなぐ
風のまなびや	風のまなびや	かける
豊田の星を	豊田の光	未来へ
胸に未来へ	あびて未来へ	のぼる
季節のたすき	虹色バトン	坂道
つないで渡す	つないで渡す	丘のうえ
どこまでも	いつまでも	はるか (はるか)
青い空へ	青い山へ	風のなか
歌おう	歌おう	かなた
友よ	友に	歌おう
かなた	はるか	友よ
たかくへ	たかくへ	ともに
エールを	エールを	エールを

講演会に寄せられたみなさんの声

和合亮一先生の講演会終了後に生徒のみなさんが書いた感想を紹介します。

《1年生》

- 1 今日、和合先生の講演でたくさんのお話を学びました。特に「”なんとなく”をなくそう」というのが心に残っています。最近、私はなんとなく生活していました。なんとなく朝起きて、なんとなく学校に行き、なんとなく家に帰って、なんとなく寝て……。今日、和合先生に言われて、ハッとしました。「どんな時にも悔いを残さないように」とも聞きました。その2つの言葉を受けて「こんなのではだめだ。もっとしっかりしないと。」と思いました。いつ、何が起ころうとも後悔しないように自分も周りの人も大切に、自分のやりたいことをしっかりやりたいと思います。まずは、自分が今やらなきゃいけないこととやりたいことを紙に書き出してみたいと思います。そこから1コ1コやっていきます。和合先生、今日は講演ありがとうございました。
- 2 私は今回の和合先生の講演会を聞いて、物事には二面性があるということを知りました。いつも習い事で失敗すると、「もうだめだな」「もう無理だな」と思うことが今までにいくつかありました。悪いことあれば、良いこともあるということに心にとめておけば、失敗した時も、いつかは良いこともあると思えるので、教えてもらって良かったです。そして、東日本大震災のことで、私は身近な人が亡くなってしまった、そういう体験はないけれど、この10年間辛い思いをしてきた人や悲しい思いをしてきた人がたくさんいることを改めて知りました。このような地震はもう起きてほしくない、ほとんどの人がこう思っていると思います。しかし、いつ起きるか分からない。そして、人が止められるものでもない。恐ろしさや不安がたくさんあると思います。いつでも危機感を感じながら過ごしていきたいです。
- 3 「ちさと、おせ。もっとおせ」を通して説明してくれて、自分たちはいろいろな人の声で成り立っていて、その人たちの声があるから頑張ることができているということに気が付かされた。また、一人の時間をつくり、好きなことを見つけてそれに夢中になることや、自分の意志をしっかりもつことも、今中学生のうちにやっておくといいことも学んだ。悩むことや困ったこともたくさんあるけれど、何事も二面性がある、良いことと悪いことがあるということも知った。これから、自分も悪いことがあっても二面性の特性を知ったので、もう片方の良い面を見つけて前向きに考えようと思った。和合先生が、いろいろな人、たくさんの人に支えられている人生だから、次は自分たちがいろいろな人、たくさんの人を支えられる人生にしてください、と言っていたので、確かに今のままだといろいろな人に助けをもらえばなしだと思ったので、これからはできるだけいろいろな人を支えられる人になれるように努力しようと思った。

そして、東日本大震災の話を知り、今当たり前だと思っていたことも、簡単に当たり前じゃなくなってしまうということが分かったので、今一緒にいる人を大切にしたり、時間を大切にしたりしようと思った。和合先生が言っていた通り、どんな時も悔いを残さないような青春時代をこれからつくっていきたいと思った。

- 4 何か一つのことについて打ち込むこと、それが大切なのかなは分からないけれど、その一つに打ち込むことで、それが息抜きになったり、それによって良いこともあったりする二面性ということを見ると、それを見付けるために続けるきっかけにもなるのかなと思います。何かを頑張る上で、その源となることがあると、ある決意のきっかけになったりと、必要なものだと感じました。「ありがとう」という詩で、物をもらってありがとうと言うこととは違ったありがとうの意味で、悲しいありがとうではあるけれど、どこか温かいありがとうの気がしました。この東日本大震災で感じたことは、すべてがすべて悪いことではなく、それで学べることもあり、この地震があったからこそ強くなれるのかなと思います。和合先生がツイッターで詩を発信し続けることによって、それを知る人もいるし、今、リアルタイムで思ったことを伝えることができる、この学習をきっかけにたくさんの方の考え方や大切なことを思い出した気がしました。今、思いつく終わりではなく、この思いを忘れないようにしないとけないなと思いました。和合先生が、支えてもらう側から支える側と言っていて、その言葉を聞いて、支える側と支えてもらう側があるから、ありがたみを感じることができるとかなと思いました。これからはずっとそのことを忘れずにいたいなと思います。
- 5 震災で大切な人や家がなくなってしまっただけでなく、それから10年経った今でも風評被害があるということを知り悲しくなりました。和合先生が風にはいろいろな意味があるとされていて、風評被害は悪い風と話していたことが印象に残っています。「はるかかはるか」の風のまなびやという歌詞では良い風を集めてほしいと聞いたので、そうなれるようにしていきたいなと思います。また、物事には必ず二面性があるという和合先生の言葉で少し考え方が変わりました。すごく嫌だったことにも良いことがあると思えるようになりました。今回の講演で言葉や文字の力が分かった気がします。和合先生の講演で自分の考えが広がりました。ありがとうございました。
- 6 今日のことについて思ったことは、みんなからの「なんとなく」などで悪いイメージ、偏見など、根拠がなく言うのはやはりダメなんだなと思いました。あとは自分の気持ちがとても大事だなと思った。和合亮一先生が経験した

地震や人生だったり、いろいろな経験があるからこそ、より説得力があるなと思いました。確かにイメージが定着すればするほど、「こんなことはしないだろう」という勝手に偏見が出てきてしまうけど、そういう考え方はあってはダメだなと思いました。和合先生が経験した教え子が未だに見付かっていることを、自分の兄に置き換えてみると、死んでしまったのかな、どこにいるのかなという不安で、多分、自分は泣きじゃくっているなと思いました。質問で、講演会の話だけではなく、番外編みたいなので、先生の悲しみなどの感情の話が出たり、先生の思いが聞けてとても嬉しかったです。最後に、「心のキャッチボール」は大切なんだなと思いました。もし、誰かが相手とは異なる方向に投げたら、何もできないからキャッチボールをしっかりとしていきたいなと思いました。今回の講演会のおかげで、震災のことをこれから生きるにあたって、大切なことを教えてくださいありがとうございました。

7 福島県の事故をなんとなく差別することはよくないという考えに、確かにそうだと思います。確かに、なんとなくでは何も知らないのに適当に言っているだけで、差別された側はかわいそうだと思います。また、差別されている側は何も悪くないし、何も悪いことはしていないという考えに確かに共感できました。だから、「なんとなく」で差別しないように気を付けたいと思いました。そのために意味や理由をしっかりと理解していきたいなと思いました。「文字には力がある」という考えに共感しました。確かに、文字は私たちにいろいろな感情を与える力があるな、と私も思いました。「ちさと、おせ。もっとおせ。」という詩を読んで、いい詩だなと思いました。何故なら、校長先生とちさとさんが夏休みに相撲の練習を一生懸命やっていたいなと思ったからです。また、「校長先生の声、魔法の力をもつ声だ」というところもすごくいいなと思いました。何故なら、安心できる魔法の力があるという表現から、校長先生はすごく優しい人だと思い、心があたたかくなってきたからです。さらに、「ありがとう」という詩を読んで、地震で亡くなったおじいさんのことで、「最後におじいちゃん見つけてくれてありがとう」という部分に、菊田さんがすごくかわいそうだと思います。このことから地震がたくさんの人の命を奪ったのだなと改めて思いました。また「光の走者」を書いた理由を聞いて、ある人のために気持ちを込めて書いているのがすごく良いと思いました。特に、「赤のバトンをしかと受け継ぐ」というところが、東日本大震災の思いを若い人たちに受け継ぐことなのかなと思いました。和合先生が詩を書く時に涙を流しながら書いたということから、とても辛かっただろうなと思います。今日、和合先生の話聞いて、東日本大震災はすごくたいへんだったのだなと思いました。その時の気持ちを今の若い人たちに伝えようとしているのがすごいと思いました。また、今日わざわざ豊田中の生徒に東日本大震災のことをたくさん伝えてくれた

り、「はるかにはるか」に込められた思いを教えてくださいありがとうございました。また、お話ししてくれると嬉しいです。

8 詩を書くまでに至る経緯や出来事を知ることができてよかったです。「ありがとう」という詩がとても心に響きました。私は地震が起きた頃は、小さかったので地震の大きさも苦しかったことも映像でしか分かりません。「ありがとう」の作者は小学校5年生なのに、これほど明るく、これほど心にくる詩を書けるのがすごいと本当に思いました。和合先生に作詞していただいた「はるかにはるか」、私はこの曲が好きで歌わせていただいています。「どこまでも 青い空へ 歌おう」という部分が特に好きで、「どこまでも青い空」という言葉にこれからの未来のことなどが感じられてとても好きです。心に響くお話をありがとうございました。

9 私は、今日の和合先生の講演会に参加して、すごく大切なことや勉強になったことがありました。一つは福島県で起こったことを、前よりさらに詳しく悲しさが伝わってきました。多くの人々が命を落とし、人々の犠牲になった人もいて、その家族の辛さが私にもよく伝わりました。災害にあった人の家族が見付からない子どもを一生懸命探して見付けることができた、先生から聞いてとても感動しました。物事をあきらめない気持ちがとても大切だと思いました。また、和合先生の詩に対する思いもとても印象に残りました。今回の講演会でとてもしっかりと学ぶことができました。今日学んだことを忘れずに過ごしたいです。

10 自分がまだ2才くらいの時のことでほんの少ししか覚えていなかったけど、今回の和合先生のお話を聞いてすごくひどいことがたくさんあったことが分かりました。特に、印象に残ったのは、小学生の人たちが書いた詩です。その中の「ありがとう」という詩にすごく感動しました。この詩を読んでいたら、そんなに辛かったのかとこっちまで辛くなりました。和合先生がどんな思いで家族と離ればなれになったのかがすごく分かりました。誰よりもこのような震災が二度と起きないでほしいと願っているのだなと思いました。先生は、震災にあった人たちのことをすごく考えており、すごく優しい人だということも話を聞いていて分かりました。そして、もう二度と東日本大震災のようなことが起きないためにはどうすればいいのかや、どうしたらみんなに分かってもらえるかなどを考えていました。自分の思ったことや考えたことなどをみんなと共有して、どれだけ辛い思いをしたのかを発信していました。自分も和合先生のような人になりたいなと思いました。今日聞いたことを見習って誰にでも優しくなれるような人に自分もなりたいです。

11 私は「変わり者になっていい。」という言葉が一番心に残っています。私は正直、小学

5年生の頃から人との接し方や関係に悩みをもっていました。でも、この話を聞いて、しっかりと自分の意思をもち、人との関係を深めていくことが大切だと感じられました。また、「好きなものをもっていれば、まわりは納得する。」という言葉も大切にしていきたいと思います。和合先生が仰っていた「一日にあった良いことと悪いことをまとめる。」ということも私も実践してみたいと思いました。理由は、私はたまたまに、家族や友だちなどで普段とは違うことが起きてしまった時に、誰にも相談せずに、一人でため込んでしまうことがあります。そんな時、この方法を使って少しでもリラクセスができるようにし、嫌なことを忘れ、良いことを考えてポジティブに考えていきたいと思いました。今日は本当にありがとうございました。

12 和合先生の話聞いて、心に刺さったことがたくさんありますが、その中でも悩みについてすごく考えさせられました。自分も勉強や将来、人間関係などで悩みだらけですが、そういったたくさんの経験から成長するんだなと思い、元気が出ました。頑張れば、それは結果となり無駄にならないし、悩むからこそ自分は変わっていくんだなと救われました。そして詩というのは、短い文だけど、その分深い意味があり、人々を成長させ変えていくような力があるんだなと思いました。

13 私は、先生の教え子さんの話と、「ありがとう」の詩を見て聞いて、すごい寂しいというか、自分が生きていくことやいろいろな人に大切にしてもらっているということを感じることができました。生きていくだけで、こんなにも大切な人に生きて会える感謝、生きて親からなどの愛を感じることができると感謝、あと好きなものを生きてこれからも追いかけて努力して頑張っていきたいです。これからは、福島の悪い風を消して、良い風が吹くのを応援しています。

14 今の私より小さい人がこんなに自分の気持ちを伝えられる詩が書けるんだと驚きました。私がもし、今震災にあっていたら立ち直れないと思います。和合先生は辛いことがあっても、その場所にずっと残っていてすごいと思いました。先生は、震災にあってもすぐにツイッターで詩を書いていて知らない人にも伝えて残そうとしていてすごいと思います。10年経っても忘れてはいけないと思います。語り継いでいけるようにすることも大切だと思います。「はるかはるか」の歌詞も、この豊田中学校を見て、豊田中学校の魅力が書かれていて、入学した時にこの歌詞を見て、豊田中学校は自分たちが何かをつくることのできる学校だと思いました。3年間で成長した自分を見たいです。ありがとうございました。

15 和合先生の講演で、大好きなコトやモノに出会えた学生時代の話聞いた時、「詩人になる」という気持ちが揺らぐことなく、文学に関われるなんて、とても素晴らしいこと

だと思いました。私は好きなコトやモノが見付からないわけではなく、逆にあれはやりたいたいけどこれもやりたい・・・とか、それをやりたいけど不安が強いなども多いです。「詩人になる」と宣言する勇氣、自信、希望があふれて見える和合先生に尊敬の思いをもちました。自分の夢を、自分の中に閉じ込めておくのではなく、さらけ出して「変わり者」になろうという姿、とても心が動きました。周りの目も気にせず、自分に自信をもち、自分なら夢をかなえられる、いやかなえてみせるという希望を和合先生から感じる事ができました。この講演を聞き、私も自分自身と向き合いたいと思いました。

16 僕は、今回の講演を聞いて「なんとなく」をなくすということがとても心に残りました。自分の生活を見直してみても「なんとなく」と使った時によいことがなかったというか、よい感じがしなかった経験があり、今回の講演を聞いてもそうだなと共感することがありました。これからの生活、なんとなく何かをするのではなく、目的があって何かをするようにしていくとよいのかなと思いました。もう一つ、震災について話されている時に思ったことが、震災のことを忘れてはいけないのだということです。東日本大震災により多くの人や土地に被害が出てしまい、悲しんだ人がいたことを少しでも覚えておかないといけないなと思いました。和合先生、今回の講演会ありがとうございました。

17 和合先生のお話を聞いて、たくさんのことを考えることができました。一つは「どんな時も悔いを残さないように」です。今は、普通の生活を毎日過ごしているけれど、いつ何が起こるか分からないと考えると、1分1秒を大切に過ごしたいと改めて考えました。最近、私はお母さんに少し反抗してしまい、朝学校へ行く時も元気がないまま「行ってきます」と言ってしまうんです。でも、もし学校で勉強している間に地震がきたり、事故にあったりしてしまい、二度と会えなくなってしまうとなると、一生後悔します。そんな後悔をしないためには、家族と居る時間、友だちと居る時間、先生と居る時間を本当に大切にしたいです。そのために、今できることに全力でいつでも取り組みたいです。そして、周りの人にたくさん感謝したいです。

18 私は、震災の時の記憶がほとんどありませんでした。しかし、和合先生の話聞いてその時どれだけたいへんだったかということが少し分かった気がします。「ありがとう」という詩がとても心に残っています。小学生が書いたとは思えないほど心に突き刺さる詩でした。未だに自分のふるさとに帰れていない人たちの思っていることは、私には分からないけれど、できることがあったらしたいなと思いました。「はるかはるか」が今まで以上に好きになりました。そして、「自分だけの殻」をこれから少しずつ割っていきたいと思います。

19 「はるかのはるか」の歌詞に込められた思いが分かった。特に印象に残ったお話は「自分から変わり者になる」という話だった。社会は周りに意見を合わせていくものだと思うけど、自分の好きなもの、意見をもっていけば必ず認めてもらえることが分かった。それを聞いて、自分ももっと自分を出せるといいなと思った。和合先生のご家族も無事に福島に戻れたと聞いて安心した。「悩みをもつのは悪いことじゃない、むしろ悩みがない」という言葉や、「泣きたい時は泣いていい。泣けば新しいものが見えてくる」という言葉など、たくさんの言葉の一つひとつが心に響いたし、グツときた。いっぱい悩んで、いっぱい泣いて新しいものを見付けることができたことを知った。今日の講演会で話して下さった言葉を忘れずにこれから過ごしていきたい。

20 震災の後の家族との別れが、もしも自分のことだったら絶対に嫌だと思いました。和合先生もとてもたいへんだったと思います。学校に通っていた頃の話はとても参考になりましたし、先生の教え子の警察官の人がまだ見付かっていないという話はとても心に残りました。亡くなってから、別れを言うこともできないまま10年が経ち、今も忘れることができないのはとても辛いと思います。先生の詩「光の走者」は、海に眠る人への思いがこもっていて、とても心に残る詩だと思えます。今回の話を聞いて、私ももっと震災当時の状況や原発について自分でも調べたりして、被災者の方たちの思いについて理解したいです。お忙しい中、お話をしてくださりありがとうございます。

21 僕は今日の講演会で東日本大震災の本当の恐ろしさを知りました。僕はその時小さかったのも、その時のことは覚えてないけど、お母さんやお父さんに聞くと、信号が消えたりしていたと言っていました。和合亮一先生の気持ちを知り、こんなことを思っていたんだなと思いました。こんなことがあったら、僕は悲しくて人に話すことができないのに、先生は人に話すことができてるすごいなと思いました。僕は、話そうとしても悲しくて話せないだろうなと思います。いつ家族や友だちに会えなくなるのか分からないから、一日一日を大切にしたい。会えなくなってから後悔しても遅いから、「ありがとう」「ごめんなさい」などの言葉を使っていきたい。また、僕は一人ひとりの命を大切にしていきたい。僕ができることは少ないかもしれないけど、できるだけみんなの役に立てるようなことがしたい。行動に責任をもって生活していきたいです。本当にありがとうございました。

22 今日の和合先生の講演で「生きる」や「よかった」などのプラスの言葉が多く出てきました。それと同じように「とじこもった」などのマイナスの言葉も出てきました。そして、このマイナスな面を悪く「こうはなるなよ」と伝えるのではなく、「これがあって今がある」というマイナスをプラスにし伝えていく、

和合先生のすごさを感じました。私も嫌なことがあった時、これがあったから今強くなっているようにしているのだから、これからもこの考えを続けていきたいなと思いました。また、豊田中学校50周年記念の「はるかのはるか」の歌詞には、悪い風でなく良い風を吹かせていこうという考えや、また新しい明日へ向かっていけるようにという思いが詰め込まれていて、改めて言葉の力は人を元氣付けたり勇気付けたりするんだなと思いました。そして、この言葉の力というのは、和合先生のような考えや思いに深い関わりがありそれは誰ももっているものと、今日気付かされました。私もこの言葉の力を大切にしてお過ごししていこうと思います。ありがとうございました。

23 事前学習の時から、いろいろな疑問があってこの講演会を楽しみにしていました。自分の記憶にないからその疑問でもあったなと思います。私が心に残ったことは「二度とない青春」です。秋の大会、勉強など、小学校の頃よりもずっと忙しいと思っているし、たまにキツイなと思うこともあります。でも、このコロナ禍で大切な人と部活ができること楽しく勉強できること、とても幸せだし、感謝の気持ちをもつべきだなと実感しました。今回の講演会を通して、今一緒に生活している家族、部活の仲間、クラスメイト、先生に日々「ありがとう」の気持ちをもっていきたいなと思いました。そして、和合先生が言っていた「どんな時も悔いを残さないように」を大切にしたいなと思いました。

24 私は今回、和合先生のお話を聞いて「なんとなく」ということを無くせるように意識して生活していきたいなと思いました。私は「なんとなく」という言葉を心の中で使ってしまう時がありましたが、中途半端で終わらせるのではなく、何でも最後までやり、失敗してしまったら次にできることを考えお過ごししていきたいです。そして辛いことがあった時には、たくさん泣いて一人の時間を作って、また新しいことに挑戦できたらと思います。東日本大震災では、多くの人が辛い思いをしたということをお忘れず、困っている人がいたら協力し助け合っていこうと思います。「どんな時も悔いを残さないように」という言葉を心にとめて生活していきたいです。今回は、たくさんの方に残るお話をしてくださり、本当にありがとうございます。

25 今日の講演会は、人として生きることの大切さを改めて感じさせてもらえる講演会でした。「生きる」ということの意味が改めてよく分かりました。今なぜ自分はここにいるのかということを考えると、いろいろな思いがあふれかえってきます。「家族」「先生」「友だち」など、自分を支えてくれる、見守ってくれている人たちに、日頃から感謝の気持ちを伝えなくてはいけないなと思いました。いつどこで何が起こるか分からない世の中なので、自分の気持ちを素直に伝え、後悔しないようにこれから生きていけたらいいなと思

ました。詩の中にある一つひとつの言葉の意味を考えながら読むと、いろいろな思いが込められていてすごく深いなと思いました。和合先生の詩を読んで、詩にすごく興味をもちました。本当にありがとうございました。

26 私は震災で失ったものは少ないです。ですが、和合亮一先生にはたくさん失ったものがあり、そのことを思うと涙が出てきます。警察の方の話、阿蘇の大橋のこと、当時の私では感じることでできなかった悲しさや恐ろしさなどが込み上げてきました。和合先生が言っていた「言葉、文字には力がある」これは本当にそうだなと思いました。私が辛い時、苦しい時、いつも側に家族や友だちがいて、優しく声をかけてくれる。そのおかげで、また立ち上がることができる。和合先生の言葉には一つひとつ重みがあり、とても心に残っています。「涙はがまんしなくていい」この言葉にすごく救われた気がします。今回の講演ですごく気が楽になり、また毎日が楽しく送れるそうです。和合先生が言っていたことを忘れることなく生活していきたいと思います。

27 「生きる」という大切さが改めて分かりました。今なお、行方不明者のご家族はその人が帰ってくる帰りを待ってずっと苦しんでいる辛さが分かりました。行方不明者が見付かると、その家族はその人の死と向き合えると言ったけど、大事な人と二度と会えないと思うと悲しいと思います。10年間毎日苦しみ悲しんできて、その苦しみ悲しみが少しでも和らぐのを願います。先生が話して、自分の子を亡くした親の話で、親の心が伝わってきました。人生は何があるか分かりません。なので、私は親、家族、友人、大切な人との時間を大切に過ごしていきたいと思いました。先生の話聞き、大切な人と過ごす時間の大切さが分かりました。毎日、悔いを残さず笑顔で過ごし、大切な人と正面から向き合ってこれから過ごしていきたいです。

28 和合先生から話を聞く前に勉強した時、災害を受けた人、その町から逃げてきた人、その方たちが差別を受けているということを知りました。私はそのことについて「何故、差別するのだろう」と思いました。その人たちは、悲しい、辛い、怖い思いをしたと思います。それなら受け入れて支え合うということをするのが当たり前ではないのかなと思いました。災害を受けた人は、不安で悲しくて怖くてたまらないと思います。そこをカバーしてあげればいいのになと思いました。それと「ありがとう」という詩について、最初読んでいたうちは何事にも感謝しているんだなと思っていました。でも、最後の部分を読んで本当は悲しかったんだな、見付けてもらえて本当に感謝しているんだなと思いました。

29 和合先生、ありがとうございました。とてもこれからの人生のためになるお話で感動しています。私は一つのことを打ち込めたいと思います。でも、やっぱり辛くなること

だってあるし、やめてしまいたいと思うことがたくさんあります。けれど、和合先生のお話を聞いて、こうやって一つのことを一生懸命にできることは幸せだということを知ったので、今日からも頑張っていきたいと思えます。また、私は東日本大震災の時、2歳で何も覚えていません。でも、大きくなるにつれ、テレビやインターネットでそのたいへんさ、辛さが分かるようになってきました。あるニュースを見て泣いたこともあります。そして、今日このお話を聞いて、やっぱり怖いなと思いました。もう二度とこういうことが起きませんようにと願うばかりです。また、小学校5年生の子のおじいさんや、先生の教え子さんのようにたくさんの方が亡くなってしまいました。こういうことを身近に感じたことがなかったので、今日改めて命の大切さを知ることができました。親や妹がうとうとし、いなくなればいいのと思うことがたびたびあります。でも、こうやって家族全員で暮らせるのが幸せなことだと教えてもらったのでそれをかみしめて生きていきたいと思えます。今日は妹の誕生日です。この命を大切に……。本当にありがとうございました。

30 とても深いお話で胸に染み込みました。和合先生のお話を聞いて、自分自身や身のまわりの環境、生活、言葉など、改めて考えることができました。自分は小5くらいの時、いじめに近い嫌がらせをクラスで見ました。自分の好きなものも周りから見たら変わっているから、少し不安なこともあります。今回の講演会で、和合先生の仰った「言葉には力がある」という言葉に胸を動かされました。今回のお話は私にとって大切な時間になりました。私は将来まだ定まった夢はありませんが悩んでいる人、ネットでのいじめをなくして、みんなの好きなものが受け入れられる社会を作れるような職業をしたいと思っています。今回のお話で震災からの差別、「なんとなく」がどんな力をもっているのか、新しい発見、その他もいろいろ学べました。被災者の方々のことを深く知ることができました。でも、まだ知らないことがあるかもしれない。そんな人たちに寄り添って味方になる、解決方法を見付けてあげる、その人の気持ちが軽くなるようなことをしたいと強く思います。これからの人生で、今回のお話が将来、役立つような生活、暮らし、活動をしていきたいです。本当にありがとうございました。

《2年生》

1 和合先生のお話を通して、和合先生の言葉から体験したことや感じたことがずっと頭に入ってきたので、お話しされていた「言葉・文字の力」を私自身もこの講演から感じるすることができました。私はどちらかというと、周りの人とズレていて一度一つのこと集中すると周りのことが見えなくなってしまうタイプなので、一時期自分を閉じ込めている時もありました。なので、和合先生から紹介してもらった小林秀雄さんの文章にとっても心があたたかくなりました。私もこれから周りの人と心から話せるような関係作りを築いていき

たいと思います。震災から10年が経って、記憶にももやがかかっている中で、ニュースでも取り上げられているように、またいつ大きな地震が来るかということにも注目があります。私は、今回の和合先生のお話も含め、大地震が起きてしまった時の対応や思いについて日々考えたいです。貴重なお話、ありがとうございました。

2 和合先生のお話で、「なんとなく」をなくそうというものがあり、自分もどこかで「なんとなく」を理由に使っていることが多くて、様々な事情がある場合も少なからずあると思うので、「なんとなく」を自分の中でなくしていければなと思いました。一つのことには打ち込めないことがあるということは自分にもあるなと思いました。何か始めても、すぐにあきてしまったり、続かないこともあったので、それでも和合先生のように何かに打ち込めることがあるということを通して、様々なことにチャレンジしていこうと思いました。また、良いことをノートに書いてみたいなとも思いました。変わり者だったとしても、世間は許す、愛してくれるという文章もとてもいいなと思いました。また、子どもたちでも、心のこもった詩があって、思いが伝わってくるなと思いました。東日本大震災から10年が経って、家族を失う人もいたり、住む場所を奪われてしまったりすることもある、たいへんなことがずっと続いていて、この先忘れられてしまうことのないように伝えていきたいです。

3 「なんとなく」という言葉を今までたくさん使ってきました。和合先生の話聞いて、生きること、学ぶことは、まさにその人を表していると感じました。これまでの私は「なんとなく」で表されることにもなるなと思いました。これからは「なんとなく」で片付けしないで、しっかりといろいろなことを学び、生きていこうという気持ちになりました。「前向きにひらめく＝よかったことを考える力」この言葉はとても心に残りました。前向きに考えることは楽しいと思います。また、私自身のいい力になると思うからです。それだけでなく、前向きにひらめくというのは、私だけでなく周りの人にもいい気持ちを共有できると思うからです。涙は心を守っているというのは、私もそう思います。悲しい時や嬉しい時、とてもたくさん笑った時、このように心でいろいろな感情がたくさん出た時、涙が出るとすっきりしたことが多々あります。なので、涙は心を守っている、また心は涙を守っていると私は思いました。今日、和合先生に話していただいたことはとても勉強になりました。ありがとうございました。

4 今日、和合先生にリモートという形で講演をしていただいて、事前学習の映像で見た東日本大震災の話だけではなく、和合先生の学生時代のお話などもたくさん聞くことができて、とても良かったです。特に、印象に残ったお話が震災の時に亡くなった警察官の男性である和合先生の教え子さんのお話です。「震

災から10年経った今、私たちは10歳年を取っているが、津波にのまれて今もお見付かかっていない人は、あの時のまま時間が止まっている」という言葉がすごく心に刺さりました。今もまだ、ご遺体が発見されていない方のご遺族の方も10年前から今までずっと発見を願っていると思うと、とても心が痛いです。また、今回のお話で和合先生の詩を書く時の姿勢が素晴らしいなと思いました。熊本県の阿蘇での取材もそうですし、豊田中学校の50周年記念の「はるかをはるか」の詩を書く時に、実際に学校に来て風景を見て思ったことを書いていたり、詩にすることの取材をしっかりとしているからこそ、和合先生の詩はいろいろな人の心に響くのだなと思いました。

5 私は震災当時のことはあまり覚えていないので、実際にいろいろなことを経験された先生のお話を聞くことができてよかったです。まず、学生の頃のお話からは、物事には二面性があることや、前向きに考えることの大切さを感じました。私も一つのことには打ち込むというよりは中途半端なタイプですが、前向きに考えていこうと思えました。次に、震災のお話や詩からはいろいろな気持ちが伝わってきて少し泣きそうになりました。私が想像するよりもっとたいへんな経験をされていたと思うし、そのようなことについて今日考えることができたのが大切だと思うので、これからこのことを忘れないでいきたいです。

6 和合先生の話聞いて感じたことが2つあります。1つ目は、前向きに考えるようにしてほしいと言っていたことについてです。私も和合先生と同じように、一つのことには打ち込まず、何が得意で何が好きなか分からず悩んでいる時があります。その気持ちに寄り添ってくれるように、悪いことだけではなく良いことにも目を向けて前向きに考えてほしいと言ってくれたことで、確かにそうだなと共感して今までの考えが少し変わった気がしました。このことを忘れずに、これからも過ごしていきたいです。2つ目は、東日本大震災についてです。和合先生は、実際にこの震災を体験していて、自分の教え子である警察官の方が、この10年間でまだ見付かかっていないという話もしてくださいました。今までの私を振り返ってみると、いつ会えなくなるか分からないということを考えたことがないと分かりました。今普通に過ごしているこの日常を大切にしながら、家族、友達など、身近な人に感謝を伝えていきたいです。これらのことを忘れずに、これからの行動や気持ちに変化があればいいと考えています。和合先生、ありがとうございました。

7 福島県では、米やそばなどが10分の1の価格で売られたり、全然買ってもらえなかったりと、大きな影響が出ていると知り、「福島県民の方々は何も悪くないのに」と思いました。本の文字をひたすら追いかけて、走ったりと、自分が夢中になれるものを必死に探せる先生はすごいなと思いました。また、

自分の人生に真っ直ぐに真剣に挑んでいることが伝わりました。「ありがとう」を読んで、「遺体が見付からなければ、悲しむことも寂しくなることもできない。」という先生の言葉に、震災の引き起こした辛い現実を感じました。先生が詩を書かれる時、泣きながら書いたものもあるけれど、泣きながら書いたものが必ず良い詩になるとは限らないと聞き、泣きながら書いたものはその時を思い出しながら書かされたため、良いものが書けそうだと思います。しかし、先生の話聞いて「泣く」ということについて印象が変わりました。機会があれば、またお話を伺いたいです。

8 和合先生の講演で、特に「風」という言葉にひかれました。良い風と悪い風、どちらも同じ風だけれど、人をいやすこともできるが、傷付けてしまうこともある。そんな「風」を良い方向にだけ使ってもらいたいととても思います。しかし、今はインターネットが普及して、心ないことが書かれていることが多くあります。ですが、一人でも良い風を吹かせてくれる人がいれば、未来は変わっていくと思います。自分も良い風を吹けているかな？と感じられました。震災の時、和合先生のツイッターが多くの人々の共感を呼んだのは、和合先生が良い風を吹かれたからだと思います。これから、良い風が吹かれているのを見たら、そこで止めずに自分も広げて風を吹いていき、良い世界にしていきたいです。

9 学生時代に良いことも悪いこともたくさん経験してきた中で、和合先生が自分なりに自分と向き合って答を出した話に、僕も好きなことに「なんとなく」ではなく、「真剣に」取り組みたいと思いました。また、東日本大震災のお話でも被災された方々の辛い思いのほかに、偏った考えが震災直後の日本中に広まっていたことを初めて知りました。そのような考えは悪いと断定するのではなく、「そう考える人もいるんだ」と知ることが大切だと思いました。小学生が書いた詩は、心の底から震災直後の被災地の様子や被災者の思いが伝わるもので、もっと世の中の人々が知るべきだと思いました。僕が住んでいる地域は、津波など大きな被害はなかったですが、この震災は確実に我々の心に深い傷を残したと思います。ですが、この震災から命の尊さを改めて感じました。東日本大震災にも二面性があるなど今回の講演で思いました。

10 和合先生がおっしゃっていた「なんとなく」はなくした方がいいという言葉が印象に残りました。思い返してみると、私もよく理由の中に「なんとなく」という言葉を使ったりすることがあるなと思ったからです。たまにしか、読書することをしない私ですが、和合先生の話で文字がどんどん目にとまってきたり、頭に入ってきたりすることで、自分が本の中に入っているような感じになり、涙が出てきたということを知り、正直少し驚いたのと、私ももう少し本を読むことをしてみようかなと思いました。私もたまにですが、悩みに悩んで何も考えたくなくなったりして

しまうことがあるのですが、何かに熱中して我に返って考え方が変わることもいいのかなと感じました。悪いことや嫌なことはたくさん見付けやすい中で、いいところを一つだけでもいいから毎日出して試してみよう、考えが変わったり自分の出来事だけではなく、人の行動に対する見方も変えることができるような気がしたので試してみようと思いました。家族と会えなくなってしまいかもという中で福島に残ろうと決めた和合先生がすごいなと思いました。時には、大きな判断を思い切っていることも経験の中では大切なかなと思いました。

11 私は今日の講演を聞いて、まずは「知る」ということがとても大切だと思いました。最初に、「なんとなく」のせいで福島の農作物があまり売れていないということを知り驚きました。震災から10年以上経った今、もう農作物の被害などはほとんどなくなったと思ってたからです。こないだの事前学習でも、今もまだ見付かっていない人や、家に帰っていない人がたくさんいることを初めて知り、改めて「知る」ことの大切さが分かりました。また、今日の講演を聞いて、今の大切さというものも分かりました。コロナで今までのように友だちと遊んだり出かけることはできないけど、「今」を大切にしたいと思いました。10年前のように、いきなり日常がなくなってしまうこともあると知ったので、周りの人に普段から感謝を伝えるようにしていきたいです。

12 今回の講演会で、10年経った福島の現状、和合先生のことを知って、その中で印象に残ったことがあります。1つ目は、風評被害について。放射能で汚染されてるかもとなんとなく思っただけであまり買われなくなってしまった。偏見されている。これは人間にかえると差別と同じなのではと思いました。2つ目が、身近な人が明日にはもういないかもしれない。自分自身も明日生きているか分からない毎日。ということを知り、和合先生の話、友人の話を知り、思いました。だから、一日一日を悔いなく生きる、寝る前に一日を振り返り、明日が来たら何しようと考えようと思えました。そして、自分だけでなく、自分の周りの人が急になくなった場合、今のままだと必ず後悔するなと思いました。だから、ありがとうは常に欠かさずに言おうと決めました。「はるかかはるか」に合うよう、近くの風景、学校の様子を思い浮かべながら歌いたいと思います。

13 今日はお忙しい中、講演をしてくださってありがとうございました。東日本大震災から10年経った今でも震災にあった人たちの思いというのが残り続けているのだなと感じることができました。10年前のあの日、私は3歳でした。とても幼かったのですが、恐怖とこの先に対する不安というものを子どもながらにあったことを、今でも鮮明に覚えています。友だちや家族、親戚などを失った人たちは本当に苦しく、どこか悔しい気持ち

でいっぱいだと思います。そして、和合先生の青春時代のお話を聞いて、その頃の和合先生の思いや、物事に対する姿勢をくみとることができました。「生きること」に疑問を抱いたり、何かを作ることに自分は熱中してやれることに気付くことは、なかなか簡単に考えることができないので、自分も”自分”にスポットライトをあてて、当時の和合先生のような考え方で新しい自分に出会えたらと思います。また、”物事には二面性がある”というところでは、私は物事をネガティブに考えがちで、自分が考え付いた一面だけを見て物事を判断してしまうので、少し立ち止まってその裏の面にも目を向けることで、違った考え(良い面)が浮かび上がってくるのではないかと、今回の講演を通して考えることができました。本当にありがとうございました。

14 普通、辛いことなど、忘れたかったり、考えたくなくなったりしてしまうことが多いのに、リアルタイムの様子や感情を多くの人に伝えたことが、私はとてもすごいことだと思ったし、そこで世界や日本人とつながることでキャッチボールが生まれて、少しずつ希望も生まれるのかなと思いました。涙を流すことは「心を守ること」、そこで「次のことが見える」という考え方がとても素敵だと思いました。そんな和合先生の前向きな考え方に、自分も前を向いて全力で生き、何かに熱中できる人生を歩みたいと思えました。私には今、将来やりたいことも、今、熱中しているものもあります。なので、悔いのないように全力で青春を送っていきます。警察官の教え子さんが、生まれかわって、また夢に向かって生きていて信じているという話もとても心に残りました。大切なことを教えてくださりありがとうございました。

15 和合先生の詩人としての生き方が素敵だなと思いました。先生のお話でもあった二面性という面で、暗く辛い震災を受けた後、人と会ったりいつものことができたりすることの幸せを感じ、感極まって泣いてしまうということもまさに二面性だなどと思いました。震災も辛いことばかりではなく、いつもの日常のありがたさ、幸せというものを感じられたのだなと思いました。そして、今回の講演会のお話で心に残っているのが、小林秀雄さんの「巧まずして変わり者であるような変わり者は、世間は、はっきり許す、愛しさえする。」という言葉に対し、和合先生の「本当に自分の好きなものを追いかけていけば応援してもらえる」というところでした。震災を通し、私は経験したことを覚えてないのですが、今生きていること、今こうして友だち、家族と当たり前のように話したり、笑い合ったりしている一瞬一瞬を大事に生きていきたいです。

16 言葉には力が文字には力があるという言葉が一番印象に残った。物事には、必ず良いことと悪いことがあるという意見がとても納得できた。たくさんの失敗を経験することで、今よりももっと強くなれるということがすご

いと思った。一見悪いことだと思っていたけれど、よく考えてみれば悪いことにも良いことがあるということがとても参考になった。悪いことが起こった時は落ち込むのではなく良いことが隠されているのではないかと探してみようと思った。今していることが長く続かなかったとしても、たくさんすることに挑戦し続ければ、いつか本当に自分にあったものが見付けられるということもとても参考になった。そこで、好きなものを見付けることができたなら、そのことに一生懸命打ち込んでたくさん努力するという大切さも学べた。「変わり者」になることを恐れないというのには、周りの目などを気にせず自分のしたいこと、好きなことを続けてほしいというメッセージが感じられた。

17 50周年記念講演会、ありがとうございました。今日の和合先生の講演からたくさんのことを学んで考えることができました。「物事には必ず二面性がある」ということについてのお話では、どんなに辛かったり失敗したりして落ち込んでしまっても、そこから立ち上がろうとする力は前向きなものだというのが、とても私の心に残り、これからたくさん分厚い壁に直面して悩み苦しんでも、必ずもう一面の良い面があるはずだと信じて少しずつ困難を乗り越えられるようになりたいと思いました。そして、その良い一面を自分で見付けるために、悩む時は一生懸命悩んで自分なりの答えを見付けたいと思います。また、震災が起きた時、とても怖く不安な思いでいっぱいだったと思うのですが、その中でも、震災についての状況や思いなどを詩で表し、Twitterでたくさんの人に每晚、伝え続けていたことが本当にすごいなと思いました。震災から10年経ってもまだ故郷に帰れない人もたくさんいることを知り、少しでも多くの人にこの状況を伝えて、震災についてもっと知ってもらいたいし、私ももっと知って自分にできることを考え、行動できるようになりたいです。「はるかをはるか」の作詞、ありがとうございます。とても素敵な歌詞で毎週音楽の授業で歌うのを楽しみにしています。豊田中学校の坂や校舎などの風景がすごく頭に浮かびます。本当にありがとうございました。

18 福島のその土地を守るために、農業を営んでいる人がいる。「なんとなく」を無くすためには、そのことをよく調べてよく知ることが大切である。一つのことには打ち込める、夢中になれることはすごく大切なこと。昔から言霊と言われるように、本当に言葉には文字には力があるんだと今回の話で気付いた。良いことだけを書いていくことで、”何か”を思い付くことがある。周りとは違っていい、たとえ変と言われてもいい、自分が好きなものに打ち込めることは恐れなくていい、大切なことをたくさん教わりました。家族が亡くなったという話を聞いた時には、悲しみと寂しさに襲われた。その時は泣けなかった。でも、やっぱり眠っているような顔を見た時に、大きな悲しさに「もう話すこともできないんだ」と思って涙が止まらなかった。大切な人

を亡くすのは、とても悲しいことだった。言葉には人の心を打つ力が感動させる力がある。泣くことは自分の心を守ることでもあって、その事実を受け入れたくないことでもある。泣くことを我慢しちゃいけない。豊田中学校50周年記念曲「はるかをはるか」には、和合先生の豊田中学校への新鮮な思いがたくさんつまっていた。この講演会で寝なくてよかったです。何だか、本当に人生に関係することを聞いた。

19 私は今回の講演を聞いて印象に残ったことは、福島県の農家の方が自分のためではなく、土地のためにたとえ赤字でも続けていることです。自分への負担を顧みずそば農家を続けている姿勢にとっても感動しました。また、「物事には二面性がある」という言葉にとってもひかれました。私はよく物事の悪い面ばかりを見てしまい、落ち込んだり不安になったりすることが多くありました。ですが、この言葉を聞いて、これまで悪い出来事だと思っていたことにも、何か良い面、良かった面があるのではないかと考えることができました。ありがとうございます。

20 自分は知らないうちに「なんとなく嫌だ」「なんとなくやる」などを考えていて、中途半端に物事を終わらせてしまうことがあったなど、和合亮一先生の話聞いて思いました。そして、部活や勉強、好きなことなどをなんとなくやるんじゃなくて、全力でやって、もしまた大きな地震が来たり、事故などにあってしまったりした時に、後悔が残らないようにしていきたいと思いました。「物事には良い面も悪い面もある」という言葉が印象に残りました。部活の試合などで負けた時や、何かで失敗してしまった時などに、「何が悪かったのか」や「次はどうしたらいいか」「どういう練習をしたらいいのか」など、これからどうしていったらよいか考えることが大切で、その物事の良い面だと思いました。また、自分もそのようなことをもっと考えて、悔いの残らないようにしたいと思いました。「一人ひとりが自分の好きなものを追いかけるような人生」にすることが大切。10年前の地震は、悲しさなどの感情を忘れてしまうほど、辛くないへんなものだったということを知って、家族のことを考えました。そして、「ありがとう」などの感謝の言葉をこれからはちゃんと伝えようと思いました。

21 私は物事には必ず二面性があるという話が印象に残っています。物事には悪いことと良いことの2つがあると聞いて「そうだな」と思いました。悪いことがあったら、やっぱり悪いことの方が目立ちちゃうけど、そのことで学んだこと、分かったことを探して、常に前向きに明るく前に前に進んでいきたいと思いました。「ありがとう」という詩を読んで、感謝の気持ちを伝えることは本当に大切なことだと改めて思いました。「ありがとう」と言われるとうれしいし、頑張ろうと思えたり、たくさんいいことがあると思います。逆に「ありがとう」と言うと、自分の気持ちを

伝えられるし、笑顔になれると思うからです。「ありがとう」は心が温かくなり、心にぽっと明るい花が咲くような言葉だと思いました。そして、今コロナ禍ということもありますが、いろいろなことを調べ、知り、分かち合い正しい情報を理解し、「なんとなく」をどんどんなくしていこうと思いました。

22 「風評被害」というものにだまされている自分を知りました。自分で、野菜や米などを買うことはあまりないけれど、産地を見ただけで「なんとなくやめよう」という気持ちになってしまうのではないかと不安になりました。「福島県で育てたもの」が、なんとなく悪いイメージになってしまう、なってしまっているという現状がとても辛いだろうし、何より福島の方が一生懸命つくってきたものを私たち日本人が無駄にしてしまっていることを知り、とても悲しいです。「自分にできること」は、自分で調べて答を見付け、行動することだと思います。自分は人に流れやすいので、自らの行動をすることが本当に大切だと感じました。うわさなどに惑わされないように、自分が納得できる答を探していきたいです。和合先生のお話を聞いて、今は本当にやる事が多くて押し潰されそうな毎日だけれど、これも青春なのだと感じます。三週間前から、どうしてテスト勉強をしているのだろう、どうして悩んでいるのだろうなどと、今年はたくさん思うことがあったけれど、「これも青春で楽しんでいる」という気持ちで過ごしていけば、少しは気が楽になると思えました。私はまだ中学2年生で、これからたくさん辛いこともあると思うけれど、青春の真っ最中である今を全力で楽しんでいきたいと思えます。ありがとうございます。

23 「なんとなく・・・だから」という考え方が一つあるだけで、いろいろな人に広まって、福島の風評被害がたくさんあることが驚きだった。和合先生が言っていたように、よく調べ、よく知り、よく分かち合うことでいろいろな地域が救われると思った。悩んだりするうちに、辛いこともあると思うし、逆に自分の好きなことや特技など、「自分を見付ける」ということができる。たくさん悩むことができた。「良かった」と思うこととは反対に「辛い」「苦しい」と感じることもある。物事には必ず「二面性」があり、だから辛い思いをして、人は強くなっていくのだと私は思った。無理に、他人に合わせようとすることはせずに、一人ひとりが自分の意思をもって生活することが大切であることが分かった。「はるかをはるか」の歌詞は、私たちが3年間学ぶ様子を書いてくださったことを知って、この曲を誇りに思わなければいけないと感じることができた。

24 「なんとなく」は自分には多い。和合先生の話聞いて思ったことは、「なんとなく」を無くした方が絶対に良いと思った。何かに本気になることはとても幸せだと思った。だから、何事にも本気でやる。そして、「あき

らめない気持ちがとても大事である」という言葉が一番心に残った。東日本大震災や他の震災で亡くなり、行方不明になっている人がまだいるということを改めて実感した。そして、行方不明になっている家族の人たちは、家族の死が本当に信じられないのだと初めて知った。行方不明の人たちのことを何としてでも探したいと思った。自分も深く震災で苦しめられている人たちのことを考えたいと思う。最近では少しずつ、みんなの記憶からなくなり、風化していると聞いたことがある。けれど、和合先生の話を知ったら、このことを絶対に忘れてはいけないことだと改めて実感した。

25 今日、和合先生の話を知って嬉しかったです。私はなんとなく部活をやったり、なんとなく勉強したりということをあまり考えたことがありませんでした。「なんとなく」というものは、きっと自分の好きじゃないことから生まれるのかなと思います。本気で好きなことなら、なんとなくという感情は生まれません。なので、今の私はそこそこ悔いのない人生を歩んでいるのかと思います。しかし、まだ中学2年生だし、これから部活のことや人間関係のことで悩むかもしれません。そのような壁に当たってしまったら、良いことをノートに書き出してみたいと思います。自分の殻の力に今はまだ気付いていないのかもしれないので、周りに合わせず一人の時間もつくりたいです。震災時には、死にたくなるほど辛い時でもツイッターに詩を更新してすごいいました。このような体験はしたことがないのに、詩を読むと情景がぱっと思い浮かんで自分もこのようなことがあったら・・・と不安に思いました。震災の中、生きていた人たちは、とても強く何かしら努力している人なのかなと思います。今日は、講演会をしていただき本当にありがとうございました。

26 今日はありがとうございました。私は、福島、宮城の被災地に何度か行ったことがあります。津波の怖さを知り、地元の方の話を知りました。ある人が「あの時のあの日に戻って、助けてあげたかった。今もあの時のままで。」と語っていました。津波ですべて流されていっても、人の思いは流されることはないことを知りました。また、和合先生が言っていた「死んだというのを信じるのができなくて、探し続けていた」という話を聞き、自分がどんな所にいようと、探し続けてくれる存在って、自分の財産なのだと感じました。「生きる」ということは、私のすべてです。「学ぶ」というのは、私のすべてです。これからも私のすべてを磨きつつ、他の人のすべてを支えてあげられる存在になりたいです。

27 お話を聞いて、震災の時のことを聞いて、さらに分かることがあって、聞くことができて良かったと思いました。一番印象に残ったことは、「ありがとう」という詩と「光の走者」の詩についてです。「ありがとう」とい

う詩では、最後の文を見て、分からなかったより、分かって「さよなら」ができた方がよかったですよなと思いました。「光の走者」では、前半の文を読んで災害のことだと思いました。そして、光の走者は教え子に向けてということと、その教え子の人のお母さん、お父さんの話を聞いて、気持ちを考えたら、きっと私が思っているより悲しいことがあったことを知ったので前より思いが分かったと思います。今回のお話を聞いて、二度とない青春を悔いを残さないように生活していきたいと思いました。「はるかかはるか」に込められた思いを知って、意味を考えながら歌いたいと思いました。今回はお話をしてくださり、本当にありがとうございました。

28 私は、和合先生の言っていた「なんとなく」という言葉に心をひかれました。震災を受けていない人たちは、「なんとなく」で福島のものを選ばなかったりも、自分たちは分かっている人たちのことも考えて行動している人たちのことも考えて行動するのはいけなかった。また、風評被害もあってはいけなかった。うそやそのことについて知らなかったり、体験してもないのに言うのはよくないと思った。「アンチコメント」などに似ていると思いました。その中でも、人にいいことを与える風はみんなで広めていくのが大切だと思いました。東日本大震災の時、まだ小さくて記憶はないですが、今いろいろと理解できるようになり知っておくのが大切だと思っています。自分もまだ、あんまり未来のことが決まっていなくても、趣味から見付かるかもしれない。自分の思っていたことよりもたくさん知ることや、福島の現状も知ることができてボランティア活動にも行きたくなりました。もし、自分が災害にあつて、風評被害にあつたりしたら、考えながら行動していきたいです。今日はありがとうございました。

29 和合先生、今日は先生にとっても辛いことを話していただき、ありがとうございました。僕はたくさんの悔いを残してきました。失恋したり、みんなから一つの反対でいじめられたり、今でも消したい思い出がたくさんあります。ですが、先生の話を知って、こんな悔いがあったからこそ今の自分がいるのだということに改めて感じるようになりました。震災で大切な人をなくした人々の気持ち、亡くなったのかも分からず不安でいっぱいの人々の気持ち、先生の話からたくさんを感じました。まだ見付かっていない人がたくさんいる。けど、見付けてくれる人もいないから自分たちで探す。どんなに時が経っても絶対にあきらめない。あきらめないそんな気持ちが分かりました。自分はあまり震災のことを知らなかったからこそ、より悲しくなりました。そして、「ありがとう」の詩を知って泣きました。見付かっていなかった不安から、やっと見付かって、やっと悲しくなれる。そんなことを考えていたら、自分の不安がちっぽけに思えました。自分はこんなにすぐあきらめてしまうのに、もうだめなことは分かっているながらあきらめない人がたくさんいる

ことを知りました。僕はこれから先生の言っていた「支えられている分、人を支える人になってほしい」という言葉を胸に今までの悔いも忘れず、人に頼られる自分になりたいです。今日は本当に貴重なお話をありがとうございました。

30 最初、福島での過去と現在での生活を聞いて、神奈川と全然違うし、和合先生の言葉で前向きに生きようと思えました。福島での震災で忘れられないこととお話していただきありがとうございます。先生の学生時代に、いろいろな体験をして思い出を作っているということを知って、私も今でしかできない体験をしたいと思いました。先生は、本を読んで国語の先生になろうと思ったということを知って、私も3年生から学校の先生になりたいと思っていましたので、先生みたいにたくさん本を読んでみようかなと思います。自分の好きなこと・ものが見付かかっていないので、これからいい体験、悪い面も感じながら、学校生活で好きなことを見付けたいと思いました。震災の話になりますけど、私は震災の時、親と一緒にいました。そう考えると、家族みんなと一緒にいることができて幸せだと思いました。今日はお忙しい中、本当にありがとうございました。

31 自分は今回の話を聞いて心がスッキリしました。先生の言葉一つひとつがとても心に響きました。「どんな時も悔いを残さない」という言葉から、自分はすぐに流されてしまい、悔いばかり残していることに気が付くことができました。なんとなく周りについていく、なんとなく話を聞いている、そんな自分のままではいけない、これからは自分の意志で行動していこうと思いました。先生はとてもポジティブな方だと思いました。震災で今まで経験したことのない、思い出したくないことをツイッターで伝え続けているからです。自分はすぐネガティブになってしまうので、考え方を変えていくきっかけとなりました。最後に、先生が泣いても良いと言ってくださった時に、一気に感情が込み上げてきてしまい泣きそうになりました。言葉の力はすごいなと実感がわきました。忙しい中、大切なことを教えていただき、本当にありがとうございました。教えていただいた言葉は絶対に忘れません。

32 今日の和合先生の話の中で、風評の話と最後の震災10年に思うことが心に残りました。まず、風評などの被害は、今ネットなどでもあることなのでよく理解ができます。ですが、福島の被害は自分は知りませんでした。初め聞いた時は、とてもひどいことだなと思いました。震災時も今も苦しんでいる中で、悪い風評を受けること、とても辛いことだと思えます。ですが、ネットなどで悪い風評が伝染する一方で、いいこともすぐに伝染すると思えます。なので、先生の話を知った僕たちだからこそできることがあると思います。僕は福島に行って何かをすることはできないけど、先生の言っていた、いい風は自

分で作ることができると思うので、自分でできることを努力しようと思いました。

33 今日の和合亮一先生の講演を聞いて、自分たちが精一杯勉強することで「なんとなく」を減らして福島にあるような風評被害のことを知り、なくしていくことにつながれたらいいなと思いました。また、物事には必ず二面性があり、悪いことの中にも良いことがあるということを知って、何か嫌なことやたいへんなことがあったとしても、そこに良いことを見付けられるように考えたいなと思いました。震災のことも、私は覚えていることはほとんどないけれど、まだ小さかったからしょうがないではなく、これからはいろいろなことを知って、いろいろな人の思いを知って、正しいこと、本当のことをたくさん知りたいなと思いました。

34 私は小さくて全然記憶になかったけれど、和合先生のお話を聞いて細かな、一部の出来事の話だけでも、一つひとつ重み、いろいろな気持ちがたくさん伝わってきました。和合先生の講演の前、いろいろな方の話をテレビで観てきましたが、8歳の女の子それぐらい小さい子でも、今自分が置かれているとても切ない悲しい状況をしっかり分かっていてこの地震は忘れたくても思い出したくなくても、心のどこかに埋まっているんだなと感じました。和合先生の教え子の方がまだ見付かかっていない。亡くなってしまった方の中に含まれていると聞いた時、“どうしてなんだろう”、“何でなのかな”と私自身も悲しい気持ちと少し怒りとは別であるけれども感じてしまうところがありました。「はるかはるか」は、とても気持ちを入れやすい素晴らしい曲でした。豊田中学校の周りの様子がしっかりと歌詞にあり、景色を思い出しながら歌うのがとても好きです。3回ほど「バトン」や「たすき」が歌詞に入っていて、「バトン」は2年生から3年生へ、「たすき」は1年生から2年生へ渡すという、似ている語が2つ入っていて、いろいろと考察など楽しく考えて歌えるという魅力があると思いました。今回はお話しいただきありがとうございました。

35 今、私たちが過ごしている青春時代、様々なことで悩んだり、何かに没頭したりするだろうし、逆に何に没頭したらいいかわからないという時がくるかもしれない。没頭できるものがなかったとしても、そこで発見できれば、良い、ということに気付いた。周りの人々に合わせるといっても、社会の一つかもしれないけれど、しっかり“自分”をもつというのも大切ということが分かった。自分に自信をもつことも大切だと気付いた。いろいろなことで、悩む時が来るかもしれないけれど、自分、自分を大切にしておきたいと思う。学ぶということ、勉強するということが心に残った。これから、自分の学びたいこと等につながる時が訪れるかもしれないけれど、それも自分の人生、自信をもって歩いていきたいと思いました。今でも行方不明の方がいると

ということ、その現実にとっても痛感した。一人の人生は、たくさんの人に支えられて成り立っていることを改めて感じる事ができた。泣きながら書いた詩が、決して特別良い作品として残るわけではないということに驚いた。ひらめきという一瞬も大事。辛いことがあって、意地やプライドで我慢しても心は守られない。泣きたい時は泣いていいと知ることができた。

36 放射線の影響で食べ物が売れないなどの風評被害があるのは、やっぱり偏見などがあるのかなと思いました。物事での良い面、悪い面を手帳に書くと何かに気が付くのではないかなと思ったのでやってみるとおもしろいかもかもしれないと思いました。私はあまり変わり者にはなりたくないと思っていたけど、和合先生が自分が好きなものを追っかけて、自分から変わり者になるという言葉聞いて、自分には思ってもみなかったのでもいい言葉だなと感じました。先生の自分の卵の殻の時間の中でゆっくり考えてみるということのは共感をもちました。私も5分でも10分でも自分だけの時間を作ってみようと思いました。「ありがとう」という詩を聞いて、私は最後の連が引っかかりました。何気なく言っている「ありがとう」でこんなに悲しくなり、涙が出そうになったのは初めてでした。最初は何で「おじいちゃんを見付けてくれてありがとう」なのかが不思議に思いました。でも、先生の話の聞いたり、考えたりしてみると、ずっと心配に思っているよりも、遺体が見付かって安心して「ありがとう」というのは悲しくて寂しいけど、私も安心した方が良いと思いました。私が印象に残ったのは、和合先生が訪ねた熊本県で険しい谷底の中、父、母が息子さんを探す時に、帰ってきてほしいという思いで探していたんだと私も思いました。私は、今回の講演を聞いて、私が思っていなかった視点でいろいろなものを見ていて面白いと思いました。今日は講演会を開いていただきありがとうございました。

37 和合先生、本日はお忙しい中、貴重なお話をありがとうございました。私は当時小さかったので、鮮明には覚えていないのですが、津波の映像や被災した方のお話を聞いて10年後の今でも恐ろしさ、絶望感を感じます。むごい震災だったと思います。和合先生の「この震災は何を私たちに教えたいのか。」という詩に共感しました。震災の意味を考えると、抜け出せなくなってしまうのではないかと私は思っています。それでも震災と向き合い、詩として様々な情景や感情を発信していただいたことで、震災の苦しさを感ぜ、忘れないように心に刻むことができました。私も創作活動が好きなのですが、その中でやはり悩むことがあります。でも、とにかく好きなことを追いかけることが一番大事なのだと感じました。悩むことはあって、好きなことを追いかけることで、きっと大きく成長し、悩みさえも楽しむことができるのだらうと思います。自分の「卵の殻」を割るためにも、自分の好きなことに夢中になれる青春時代にした

いと思います。本当にありがとうございました。

38 今日は本当にありがとうございました。今回、和合先生が講演して下さる事になって、今までよりさらに震災について知ること、考えることができました。被災した地域の方々、今でも悩んだり苦しんだりすることがたくさんあると思います。そういう方々に対して私ができることは何かと考えた時、一番大切なのは知ることだと思いました。現地に行って助けることはできないけれど、少しでも震災のことについて関心を持ち、震災に対する意識を高めていきたいと感じることができました。また、先生がおっしゃっていた「なんとなくを無くす」ということがとても心に残っています。私も決定的な理由はないのに、「これはなんとなく嫌だ」と感じてしまうことがよくあります。そんな自分を変えないといけないと思います。もう一つ、和合先生がおっしゃっていた「良かったことを書き出す」ということも実行してみようと思いました。私はどちらかというと、マイナスな方向に物事を考えてしまうくせがあるので、良かったことを書き出すことで、プラスの方向に考えられる人になりたいです。今日は本当に勉強になりました。ありがとうございました。

39 今回の講演で和合先生はとても笑顔で語って下さいました。その笑顔からはとても想像ができないほど辛い経験されていらっしやるのに、どうして笑顔が絶えなかったのか。私はすごいと思いました。私は震災のことについて映像でしか知りませんでした。私にとって、東日本大震災は「知っているだけ」という考えでした。しかし、私の今までの考えは変わりました。和合先生の経験を聞いてみると、大切な教え子まで失い、福島への風評被害は今でもある。震災を自身の体で体験したからこそ、震災の状況や今の状況もより深く伝わってきました。私はこの講演を通して、自分の理解が甘かったことに気付きました。「なんとなく」の知識だけでは自分の未来はつかめません。好きなものに一生懸命になって、自分自身で見て、聞いて、感じたものを自分の知識として蓄えて、夢への一歩をつかみたいと思います。今回の講演でたくさんのことを学ばせていただきました。本当にありがとうございました。

40 福島という遠い場所から話をしてくださりありがとうございました。「はるかをはるか」は実際に和合先生が豊田中学校を訪れて歌詞を書いて下さったこと知り、一つひとつの言葉が身近に感じられました。「はるかをはるか」を聞いてとても心に届きました。これから大切に歌っていきたくです。私は運動部に入っています。でも、新型コロナウイルスの影響で試合もほとんどできず、やりきれないところがありました。けれど、先生の話聞いて、この状況でもできることを探していこうと思えました。また、言葉の大切さも知ることができました。震災の時や辛い時、人

からもらった言葉や本の中の言葉に先生が助けられたことを聞き、言葉は偉大なものであることが分かりました。言葉はよいことも悪いことも伝えてしまうので、自分はよい言葉を人に伝えていきたいです。「はるかをはるか」の歌詞について話をしてくださった時、何か自分の学校が誇らしくなりました。いつも通っている坂道も今日はゆっくり歩きたいと思いました。

《3年生》

1 「なんとなく」行動することが多かったけど、お話を聞いて「なんとなく」ではない行動にしたいと思う。福島で10年経っても風評被害があることを知らなくて、それを聞いて驚いた。誤解している方が多いようなので、本当のことを知ってもらいたいし、よりよくなるといいなと思った。私も一つに打ち込むことはなくコロコロ変わるから、何か熱中できるものがほしいので、いろいろチャレンジしようと思う。物事に二面性があるというのは、本当にその通りだと思う。今までそのような考えはなかったけど、思えばその通りだった。何かダメなことがあっても、必ずいいことがあると信じてポジティブに生きたい。一日や一週間にあった良いことを書くというのが良いと思った。日記とかを書くのは好きなのでやってみようと思う。家族と離れるという決断をしたのがすごいと思う。一人きりで、明日何が起こるか分からないのに、毎日詩を更新していて、被災者の方も見ていたと思うので、たくさんの人に希望を与えていたと思う。

2 和合亮一先生の講演を聞いて、東日本大震災から10年が経った今は、ある程度の生活ができていますが、10年前は津波で亡くなってしまった人や、今まで作っていた食べ物がだめになってしまったことがあったのを改めて感じました。また、被害にあった町や村などから逃げて10年が経った今、町や村から人口が減っていると、TVやラジオで聞き、残念だと思いました。詩を読んでみると、小学生が詩に書いた思いなどが伝わってきて、とてもよい詩だなと思いました。和合亮一先生の詩も読んでみると、小学生や中学生の考え方と違う考えがあり、人それぞれの気持ちを感じる詩でした。10年経ってもまだ見付からない人たちがまだ1万人近くいると知ると、早く見付けてご家族の方々に会わせてあげたいし、大切な人を失いたくないと思った。私が今思うことは一つひとつの命を大事にし10年前にあった東日本大震災の時のことを次の世代につなげていきたいと思っています。また、周りの人とコミュニケーションをとり、元気付けていきたいと思いました。50周年記念の「はるかをはるか」の意味を知ると、豊田中学校にあう曲を作ってくれてうれしいなと思いました。また、「はるかをはるか」を歌ってみると、いろいろな音やハーモニーが重なり合って豊田中学校らしいなと思いました。

3 今回の話を聞いて、自分たちには到底感じられない気持ちが、和合先生のような被災者の方たちにはあるのだと感じました。そんな中で、今回のように和合先生は何故辛い出来事などの話の中にも笑顔があるのかなと自分なりに考えてみました。それは、先生自身の体験の中で得た感覚や想いを少しでも私たちの心の中に広げてくれようと思ってくれたからだと思います。そして、自分たちにとって近くにあることを発見していくことはとても面白いことなのだと教えられているような気がしました。今回の様々なお話の内容の中で、自分の抱えていた悩みも少し軽くなったような気がしました。そして、自分が目指す今の先へ進んでいく勇気ももてました。様々な想いが入りまじっている今も、自分の卵の殻の中でゆっくり考えてみたいと思います。今日はありがとうございました。機会があれば、またお話を聞かせてください。

4 私は和合先生の「悪いことばかりではない」「文字は力をくれる」という言葉が心に残りました。悪いことがあると、いつも自分の悪いところを探してしまいます。けど、この言葉を聞いて思い返してみると、その悪いことにも発見や気づきがありました。苦しんでいた日々でも良いことがあるのだと思いました。「文字は力をくれる」という言葉は和合先生の詩を読んで、とてもそう思いました。「光の走者」という詩は、悲しいことがあっても、信じて前へ歩いていこうという気持ちになり、どんなことも明日に向かって頑張る勇気を詩が伝えてくれました。東日本大震災の被害を知り、神奈川県にいた私たちは同じ日本人なのに被害者の思いをよく知らないのだと思いました。ふるさとに戻りたくても戻れない、思い出の場所に行きたくても行けないことの辛さは被害者以上に分かることができなないので、私たちは被害者がこれから少しでも楽しく暮らせるように協力していかなければならないと思いました。

5 自分自身、将来などについてどうしようもなく不安になってしまうことがあります。自分の悪い所ばかり考えて嫌になってしまうのですが、先生の話聞いて、そういった悩んだことや考えた経験は、きっと将来よかったと思えるものになるんだと思いました。自分が好きだと思えるものになるんだと思いました。自分が好きだと思えるものに出会うのは、決して+（プラス）の感情の時とは限らないことに気づきました。先生が「言葉」に出会ったように、私も大切な何かに出会えるようにいろいろなことに挑戦してみたいです。熊本地震や東日本大震災の話、聞いていて胸が苦しくなりました。そういった出来事は身近じゃないけれど、家族や身近な人を大切に思う気持ちは私の周りにも何と変わらないなと思いました。最後の「はるかをはるか」の先生の思いを知って、いつも過ぎていく豊田中の普段気付かなかった良さや大切さに気づけたと思います。今この瞬間を悔いの残らないように精一杯できることを頑張りたいと思います。ありがとうございました。

6 和合先生のお話を聞き、改めて震災というものは怖いと思いました。特に「ありがとう」という詩では、「さよならすることができました」という言葉を読んで、さよならするまでの待っている時間はどんなに辛く悲しかったのだらうと思いました。自分はあまり好きなことや特技がないのが、ちょっとした悩みでした。なので、先生のお話を聞き、この話は私へのお告げなのではと勘違いするほど身になるお話でした。話を聞き、私はいろいろなことに挑戦をし、少しでも自分の好きなことを見付けることができたらしいと思いました。そしてもう一つ、私は先生の話聞いたことで「中学生」の時間はもう少ししかないということに気付きました。この少しの時間の中で、私は自分のやりたいことを隠さずに、うじうじしないでバンバンやろうと思いました。和合先生、短い時間の中、数々の素晴らしいお話を話してくださりありがとうございます。この時間は、自分の気持ちに気付いたり考えたりできた、とても有意義な時間でした。本当にありがとうございます。

7 今回の講演は、自分にとってとても大切な時間になったと思います。自分はまだ十数年しか人生を経験していないし、また社会のことをほとんど知りません。でも、今回の講演では震災という大きな出来事から多くの学びを得られました。和合先生は、この地震に直面し、多くの出来事を知ったからこそその言葉の重みがあり、一つひとつのことがとても重要なものなんだと話を聞くことができました。特に、二面性のことや教え子さんへのことが印象に残っています。自分は一つのことに対し、マイナスな感情の方が大きく、全てを良い方にとらえることがあまりできませんでした。和合先生の失恋の話のように、失敗しても良いことはあるという二面性の話を聞き自分はまだ一つの面でしか物事を見ていないんだと気付きました。もう一つの話の方では、親の方が辛いし苦しいと思うけれど、生まれ変わってもまた勉強しているという親御さんの想いを聞いて、この人たちも和合先生のように物事に対し二面性があることを知っていて、このことを言っているとすると、子どもさんをよく信頼している、とても良い親御さんだと思いました。今回はたいへんな中、講演会で話をしてくださりありがとうございます。

8 今回の講演会で、改めて感謝を伝えることが大切だなと思いました。辛い中でも少しのことでも「ありがとう」と伝えられるようになれば、これからよりよい世界になれると思います。僕は辛いこと苦しいことがある時には、トンネルの中に入っていると思って、トンネルを抜けることができれば幸せになる明るい未来があると思って生きています。そういう明るい未来になるように、今を楽しみ、いろいろな経験、たくさんの努力をしていけるような人になりたいです。今はコロナ禍でいろいろな人が苦しんでいると思います。前のようにマスクをしない暮らし、行事を行える

ようになればなと願っています。とにかく今は、それに耐えてこの先は良い未来になるという思いをもてれば少しは気が楽だと思います。今回の講演会で、数々の思いをもつことができたのでよかったです。ありがとうございました。

9 「なんとなく」を無くそう、中途半端にやってしまったという話を聞いて、私も今までやってきたことが中途半端で後悔したことも多くあったなと思いました。また、今やっている勉強や好きなことも中途半端にやってしまうこともあるので、できるところまで極めたいなと思うことができました。物事には二面性があるので失敗しても良いと聞いて私はまだ将来何をしたいかが決まっていなくて、今やりたいこともないので、和合先生が走ったり、銀閣寺をつくったり、読書をしたりいろいろなことをしていたように、何か少しでも興味をもったことをどんどんやってみたり、好きなことややりたいことが見付かるかもしれないので、失敗しても良いと思って、いろいろなことに挑戦していきたいなと思いました。卵の殻という例えが、すごく印象に残りました。今年は受験があるので周りの人たちの学力が、どんどん伸びていくことに焦り、嫌になることもたくさんありましたが、パニックにならずに、自分の卵の殻の時間で一つひとつ頑張っていこうと思えました。阿蘇の大橋の話と和合先生の教え子さんの方話を聞いて、残されてしまった家族の思いを想像すると胸がとても痛くなりました。今でも眠れなかったり、辛い思いをしている人がたくさんいることを知り、被害にあった人が少しでもはやく安心して幸せに暮らせると良いなと思いました。

10 今日の講演で、物事には必ず二面性がある話が印象に残った。悪いことだけを考えるのではなく、良いことを考えることで、良いアイデアがひらめいたり、たくさんの経験を通して強くなるのが大切なんだと感じた。福島風評被害の話で、10年の時が経っているはずなのに、福島の物が売れなくなったり、福島の人への差別だったり、根拠のない理由で避けられたりしているということは良く今になってもなくならないということは良くないことだと思った。差別や偏見の課題は、これからの日本で解決すべき問題と思う。阿蘇の大橋の話で、息子さんを探すために、険しい谷を毎日下っていく両親のあきらめない心に素晴らしいなと感じた。自分もあきらめなければ、きっといいことがあると信じて頑張っていきたいと感じた。

11 和合先生のお話を聞いて「なんとなく」をやめようと思った。風評被害にもつながるし、なんとなくだと中途半端になると思った。風評被害があるのを知らなかった。少し調べたら、風評被害がなくなるんじゃないかと思った。物事には必ず二面性があるところで、何かで失敗してしまっても、その中で良いものは何かを考えてポジティブに考えようと思った。波でさらわれてしまって、遺体で帰っ

てきて、やっと寂しくなれるという話がすごく悲しいと思った。東日本大震災だけじゃなく、たくさん地震でいろいろな人が亡くなってしまうと、とても悲しいことだと思った。和合先生の話聞いて詩ってすごいなと思った。家族ともう会えないとかをあまり考えたことがなかったけど、それを考えるよい機会になったと思う。自分の伝えたいことを急に伝えられなくなってしまったことあると思ったから、自分の思いをしっかりと伝えていこうと思った。

12 和合先生のお話を聞いて、自分はダンスをしているのですが、将来の夢をかなえるために習っていて、たまに楽しくないと思ったりしている時があります。でも、ダンスをもっといつもより楽しんで、上手くキレのあるダンスを踊れるように頑張っていきたいと思ったり、勉強も高校のために将来のために、分からない問題があったりしたら、友だちや先生に聞いたりしていいこうと思えました。また、好きなものを追いかける＝「変わり者」になることを恐れない生き方というお話がとても心に「グツ」ときました。私は勉強が全然できないです。でも、相手のことを気遣ったり、社会の常識はあると思います。勉強ができないと、常識がないという人々の意見があると私は思います。でも、そんなことないし、人に優しくできるし、というところが私はできるって思っています。私は和合先生の言う「変わり者」になろうと改めて思うことができました。私の知人が南三陸町に住んでいて、津波で知人のお父様が亡くなってしまった。そのお父様は町の消防隊で町の人々を守ろうと、今は南三陸の中心にある赤い鉄骨にいたと聞きました。和合先生の教え子の警察官さんと似たようなお話で泣きそうになりました。町の人を守ろうとして亡くなったことで、命が今ある人もいると思う。和合先生のお話を聞いて、とても考えさせられる講演会でした。本当にありがとうございました。

13 「なんとなく」は何気なく使ってしまうと思う。でも、その言葉には力がある。福島10年間の風評被害もそうだが影響力がある。自分も言うことがある。でも、「なんとなく」という無知と状態は危険だと思った。全てに意味や理由があるから「なんとなく」や物事の一面だけを見るのではなく、良いところ、悪いところ、両方を見られるようになりたいと思った。また、自分は読書が好きである。後に、青春と呼ばれるだろう今を、知識という武器を使って楽しみたいし、卵の殻を割れるように目標を立てて達成したいと思った。自分自身、不思議な子と言われるので、「巧まずして・・・」は自信になった。震災の話はいつ聞いても胸が痛くなる。そして遺族の気持ちは自分たちに計り知れないけれどどんなに辛いのか、今生きている自分に何ができるか、もう一度考え直すことができた。学び、つなぎたいと思った。豊田中学校に吹く風に背中を押してもらって残りの数ヶ月を過ごしたいです。

14 今日、和合先生の講演で感じたことは卵の殻の時間の大切さです。今は、受験生で毎日バタバタして悩んで迷っていつも不安定な状態にあります。周りからは遊んでいるように、ふざけているように見えても、いつも悩んでいます。進学のこと親と意見が対立したり、自分の考えをなかなか言えなかったりして、否定されているような気さえしてしまっています。その中で、今日和合先生がおっしゃった”卵の殻の時間”というのとはとても心に刺さりました。そして、好きなものを追いかけて、変わり者になることを恐れない生き方。これは、私自身がやろうと思っても、できなかったことだと思いました。好きなものがあったとしても、何か否定されるのではないかと怖くなって好きだと言えない。言いたくても言えないことが、とても悲しかったです。これは、10年前の被災した方々も同じだったのではないかと思います。和合先生の話聞くことができよかったです。今日聞いたことは私の生き方や考え方に強く影響を与えられると思います。

15 福島県で売られているお米や野菜が震災の影響であまり売れていないことは知っていたけれど、私は特に気にしていませんでした。けれど、影響は実はそんなに受けていないと初めて知ったので、これを家族や身近な人に伝えていって、離れていても地震の被害に合っている地域を助けていきたいと思いました。私はいつも物事をマイナスに考えてしまい、ネガティブ思考に悩んでいました。でも、「物事には必ず二面性がある」と和合先生が言っていて、私はマイナスがあるならプラスだってあると気が付きました。マイナスに考えてしまったことを、プラスに変えられるように意識していきたいと思いました。小学校3年生と5年生の詩を読んで、特に5年生の男の子の詩が心に残りました。最後の言葉の前と最後の言葉では、心の中で読んでも分かるくらい声のトーンが違うような気がしました。遺体で見付かった家族に対する悲しさと、見付けてくださった方への感謝の気持ちがあって辛くなりました。私は東日本大震災のことは何も覚えていないし、被害も受けていなくて何も知りませんでした。でも、今日和合先生の話聞いて、ビデオを観たりして、被害を受けていないからといって知らないのはダメなんだと思いました。今日知ることができたことを絶対に忘れないで、妹やその下の世代の子ども達にも伝えていきたいです。

16 私は昔、「変わっているね」や「不思議な子」と言われたことがあって、人と変わっているのは良くないのではないかなと思ったことがありました。しかし、和合先生の「変わり者」になることを恐れないという話に救われて、自分は自分でいいんだなと感じることができました。和合先生の話の中にあつた、亡くなったご家族のご遺体を見て「やっとな悲しくなることができる」という言葉を聞いて、「ご遺体が見付かるまで、どんな気持ちだったのだろう・・・」と考え、心が痛くなりました。自分の大切な人が一瞬で消えてしま

地震の恐ろしさを感じ、日頃から「ありがとう」を言える人になろうと改めて感じました。自分が今、悩んでいることも、いつかは「良かった」と思える日が来るよう、いっぱい悩んで学んでいきたいと思いました。

17 和合先生が言っていた「言葉には力がある」という言葉に、すごく納得できました。知らない赤の他人でも、辛い時に「大丈夫？」と一言話しかけてくれるだけで、少し救われた気持ちになれるし、大切にしている人や大好きな人に言われれば安心できるので、「言葉に力がある」というのは本当に大切なんだと思いました。東日本大震災の時、私は4歳で家で遊んでいました。いきなり大きく揺られて、心臓が「バクバク」いていたのを覚えています。この時は「大きな地震で停電しちゃったんだ」程度にしか考えてなかったのですが、小学校に入って、3/11になると黙祷が行われて、「前の地震はたいへんな地震だったんだ」と気付きました。もう少し大きくなると、ニュースなどで「死者〇〇人、行方不明者〇〇人」というのを見て、「自分はこんなにのんきに遊んでいて良いのか」と考えるようになりました。私は東日本大震災を経験した人に入るのかもしれませんが、私は地震を体験しただけであって、本当の被害を体験したわけではないことを改めて思い出しました。実際に体験した方からの話を聞いて良かったです。ありがとうございました。

18 和合先生の講演を聞いて、今なお見付かいていない人、放射線の風評被害によって苦しんでいる農家の人、漁師の人、また家族と震災によって別れ、離れてしまった人が10年経った今、何を考えているのかよく分かり、自分自身の家族、友だちなどの大切な人をもっていることは必ずのことではないと感じました。和合先生が「変わり者」になることを恐れるなど言っていて、自分はそれとは正反対なことをしていたなど強く実感しました。「人に合わせる」など、人に変わっているとやられないように生活していました。しかし、今日聞いた瞬間から、自分の好きなものに向き合って進んでいこうと思いました。自分はゲームをつくる、正確に言うとプログラマーになることが将来の夢です。そのためにPCの勉強を学校の勉強と両立させています。今までは、少し変わっているとされていました。その言葉で頑張れる気がしました。

19 今日の和合先生のお話を聞いて、改めて震災について深く考えました。また、お話をさせていただく中で、「なんとなく」をなくすることが大切だとおっしゃられていて、自分の「なんとなく」で傷付く人たちがいるのだと気付きました。今も福島では風評被害が続いていることと思います。私も最初から「なんとなく」で怖がるのではなく、きちんと調べて、知ることから始めようと思います。もう一つ、私が和合先生のお話の中で印象に残っているのは、「変わり者にどんどんなるべき」という言葉です。私も小さい時からずっとやりたいものがあって、ずっとこのまま夢を追

いかけてよいのだろうか不安だったので、その言葉を聞いてとても安心しました。今日いただいた言葉を胸にこれからの人生を歩いていきたいと思います。

20 「なんとなく」という言葉を止める。この言葉が印象に残っている。「なんとなく嫌だ」「なんとなく怖い」「なんとなく反対」など、なぜなんとなく思っているのか、聞いた人は疑問をもつだろう。なんとなく＝はっきりしない、あいまいな意味だと思う。これからは、自分の気持ちをはっきり話すようにしたい。また、物事には必ず「二面性」がある。良いことと悪いことの二つが存在する。でも、悪い面を良い面に変えていくようにすることはいくらでもできる。その言葉に勇気をもらった。ピンチをチャンスに変えるように、上手くいかなかったことを次は上手くいくように行動しよう！と思えるきっかけになったと気付ければ、物事の見方や考え方が大きく変化し、素敵な人生になるのではないかと感じた。そして、「今日一日、一週間、一ヶ月、・・・良いことだけを書き出してみる」という考えは、素晴らしいアイデアだと思った。良かったことを思い出すだけで、暗い気持ちが少しは明るくなったり、前向きになる始まりが作れると思えたからだ。他には、「自分の殻の時間の中でゆっくり考えてみる」という言葉を強調していたが、休憩をして、自分の好きなことをするのも、たまには大切だと思う。リラックスをすることで、ストレスがなくなったりするだけではなく、自分の好みや得意なことを知ることができる良い機会になると思ったからだ。勉強などで忙しく、ゆっくりする時間が少なくなってしまうが自分へのごほうびに読書や音楽を聞く時間もつくりたい。

21 先生の人生経験から学べるものがたくさんありました。紹介してくれた詩の中の一つ「ありがとう」が個人的に一番好きだなと思いました。どんな小さなことでも、自分が「普通」の生活ではない中にいる時は、何でも感謝できる、ありがたいと思い、それを言葉にできる。けど、自分が「普通」の生活の中にいるとどうしても「当たり前」のことだと思いい、言葉にすることがないことが多い生活になってしまうから、その中で「当たり前」のことを言葉に、「当たり前」じゃないことも言葉に、自分がいつもできていない「当たり前」をできるようにしたいなと思います。先生の学生時代の話聞いて共感できる場所がありました。「一つのこと打ち込めない」ことだったり、「部屋に閉じこもって本を開くと涙が出る」など、自分の今の状態に近いものを感じました。今の自分も、先生の経験を活かしてこの先過ごしていきたいです。自分の「卵の殻」がどんなものなのかが気になります。見付けたら、またいつもと違う自分になれることを期待して生きていきます。

22 私はすごく大きい震災被害にあったことがないので、まだ分からないこともあると思うけど、和合先生のお話を聞き、授業でビデ

才を観て地震が起きた時の気持ちやその後の10年間の日々を少し理解することができた気がします。私は一日良かったことを考えるより、悪かったことを考えてしまうことが多いので、先生の良いことだけを書き出すのをやってみようと思いました。そういう方に前向きに生活を送れるように心がけようと思います。でも、動画を観ただけじゃ、まだ理解しきれていないこともあると思うので、これから震災のこととかを調べてこれからの世代に伝えられるくらい勉強しようと思いました。

23 私は今まで物事に対して無意識に「なんとなく」という感情をもっていただけ、今日の和合先生のお話を聞いて、「なんとなく」ではなくてしっかりと自分と向き合っていくことが大切だと学んだので、これからはそれを生かしていきたいです。また、私は何か一つのこと打ち込むということが苦手で、長続きせずにすぐやめてしまうことが多いので和合先生のように何か打ち込めるものを見付けていきたいし、毎日良いことだけを書き出していくことをしていきたいと思いました。先生の好きなものを追いかけることや、「変わり者」になることを恐れない生き方はすごく尊敬するし、私もそういう生き方をしていきたいなと思いました。今回、和合先生のお話を聞いて、先生がどうして詩を書こうと思ったのかや、先生の詩への思いを知ることができて良かったです。本日はありがとうございました。

24 和合先生の中の「風」にはたくさんの意味が込められていると感じた。「はるかをはるか」では、「風のまなびや」の部分に深い意味があると知らなくて、知ってからは私たちのために考えてくださったと感じ、豊田中学校に良い風が吹き続けるといいなと思った。素敵な歌をありがとうございました。震災の被災地に実際に行くというのもすごいと思いました。福島で風評被害にあっている(誤った情報が流れている)ところや、大地震のあった熊本にも行くなど、人のために動く行動力がすごいと思いました。インターネットも活用には悪い面もあるのに、和合先生のツイッターには人のあたたかいところが見られて良くも使えるんだと思うと嬉しくなりました。私はまだ好きなものを見付けていないけど、好きなものを使って人のために動けたらいいなと思いました。

25 「今は自分の卵の殻の中で」という和合先生のお話を聞き、私は今高校受験など不安の日々を送っていますが、自分の好きなことと両立して行って、将来自分の卵の殻を割った時には、自分が納得できる人になっていきたいと思いました。今、私が卵の殻の中でできることを見付けて毎日毎日生きていきたいです。また、「物事には必ず二面性がある」というお話を聞き、今まで私はもったいない生き方を生きてしまったと思いました。コロナの影響でできることが少なくなってしまう時、いつも後ろ向きにはかり考えてしま

うくせがありました。しかし、これからはそんな時だからこそのことを考えていき、前向きに考えていこうと決めました。私は「はるかをはるか」の曲は、今まで出会ってきた中で、いちばんきれいな曲だと思いました。このきれいな曲をつくってくださった和合先生のお話を聞いて良かったです。今日はありがとうございました。

26 まず、和合先生の過去の話聞いて、私も一つのことにごく打ち込むということができなかった時期があったので、とても共感できました。その中から、好きなことが発見できたというところはとても印象に残っています。そして、東日本大震災があった当時、私はまだ4歳だったけれど、揺れた時のことはまだ覚えています。神奈川にいる私でさえ、こんなに鮮明に覚えていてそしてショックだったので、もっと震源地に近かったり、津波を経験したりした人は、計り知れないほどショックだったと思います。できれば思い出したくない過去、見たくない目を背けてしまいたい過去だけれど、もっと現実はどうだったのか知らないといけないと思います。また、根拠がないことも信じてはいけないと思いました。福島の人々がたいへんな思いをしているのなら、協力をしなければいけないという思いをもって、私たちも風評被害がなくなるように調べて知っていくことが大切だと思いました。

27 私は和合先生のお話のどんな時も悔いを残さないようにとおっしゃっていたのが印象深かったです。地震は誰にも予測できないものであり、地震が起こって失うものがあるれば二度と帰ってくることはない。だからこそ、一日一日を大切に、何をするにも悔いがないように生きていきたいと思いました。また、今年は震災から10年で福島は今も避難をされて戻ってこない人が多いとビデオで観ました。私たちは震災を経験したわけではないので、地元の方々の気持ちが分かりにくいです。10年が経ち、復興が進む中、未だに苦しんでいる方や、地元に戻りたくても戻れない方がいるということを忘れてはいけないと、今回の講演で改めて思いました。また、私たちにできることは何か、今後も考えていきたいです。

28 50周年記念講演会として、和合先生のお話を聞くことができて本当に嬉しかったです。震災のことだけでなく、「生きる」ことや私たちの生活についても話してくださり、自分のこととして身近に捉えることができました。和合先生の青春時代の話聞いて、和合先生にもそんな時があったのだなと思いました。震災については、事前学習でも学習していましたが、改めて今でも記憶に残し、伝え合っていくことが大切だなと感じました。私も東日本大震災が起きたその瞬間に生きていた人間として、震災のことを決して忘れないようにします。熊本の大橋の話や先生の教え子さんの話を聞いて、とても胸が痛くなりました。それでも、和合先生は経験したこと、感じたことを発信していて本当に強い方だな

と思えました。また、勇気付けられました。お話を聞かせていただき、本当にありがとうございました。周りの人を勇気付ける素晴らしい詩を書き続けていってください。

29 私たちが普段使っている「なんとなく」という言葉で苦しんでいる人がいると初めて知った。災害にあった地域というだけで、何も悪くない農家さんが辛い思いをしているのは一人の人として悲しい気持ちになった。作物を育てるのを止めてしまうと、もうその土地が使えなくなるから赤字になっても作り続ける。でも、「なんとなく」という気持ちをもっている人が多くいるから苦しくなる。私は農家さんと関わることがないから、その人たちの苦しみはよく分からない。けど、世の中にはこういう方々がいると多量の人たちに知ってもらいたいと思った。和合亮一先生が言っていた「遺体が見付かるまで悲しいの気持ちもない」という言葉がすごく心に突き刺さった。私たちが悲しい時は、改善方法があるかもしれない。泣いたり、相談したり。でも、災害で家族や友だちのように大切な人の行方が分かってない人は、泣いても泣いても気持ちが楽にならない。毎日生きるのに限界を感じる人がたくさんいると思う。災害から10年経っても、苦しくて辛い思いをもちながら、災害から今まで生きている人は素晴らしいと思った。私が災害にあった人なら、10年も耐えて生きていくことは無理だと思う。今日の話聞いてもっと詳しく10

年前のことを知り、いろいろなことを理解していきたくと思った。

30 今自分が受験生で勉強しないといけない、やることをやらないといけないということがたくさん増えてきて、でも観たい動画がある、遊びたいことがあるということも、今まで通りあって、毎日自分の中で少し戦ってました。和合先生の「今しかできない、後で後悔しても遅い」という言葉を聞いて、自分の中で葛藤があったとしても、未来のことを考えて今自分がしていることは、未来の自分に対していいことをしているのかということを考えてながら、これからも頑張っていきたいなど感じました。また、受験以外にも挑戦できることはたくさん身近にあると思うので、物事の様々な二面性を感じ、自分の人生の糧にできればいいなと思いました。「好きなものを追いかけることで変わり者というイメージをもたれても周りは認めてくれる」という言葉を聞いて確かにそうかもしれないと感じました。そして、ここで言う「変わり者」は周りの人に刺激を与える存在だと私は思うので、周りの人とお互いに刺激を感じられたらいいなと思いました。

《感想をまとめるにあたって》

生徒のみなさんの実際の表記をできる限り大切にしましたが、使用する漢字をそろえたり、文章の意味が伝わりやすいように修正した部分があることをご了解ください。

今回、本校創立50周年を記念して、平成23(2011)年3月11日に起きた東日本大震災に関する事前学習を踏まえて、詩人の和合亮一先生にご講演をいただきました。

講演後、生徒のみなさんが書かれた感想を全て読ませていただきました。現在、在籍している生徒のみなさんは震災当時幼かったこともあり、その記憶がなかったり薄かったりしていた人が多かったことと思います。しかし、生徒のみなさんからは、和合先生のご講演で感じられた言葉やメッセージを自分のこととして受け止め、自分のこれからは生かしていこうとする真摯な姿勢を強く感じる事ができました。

世の中には、正しく知らなければならぬことがたくさんあります。東日本大震災のこともその一つであろうと思います。みなさんの感想を読みながら、そうした課題に向き合う姿勢がみなさんの中に生まれ、そしてそれをさらに伸ばそうとしている様子がよく分かりました。みなさんと同じ社会に生きている一人として、みなさんから多くのことを学ばせていただくとともに、これからの社会をつくり、支えていくみなさんに、今回学んだことをさらに発展させ、学校に社会に「よい風」を吹かせてもらえたらと心から願わずにはいませんでした。

前回の講演会の時と同じように、100名のみなさんの感想を掲載しました。読むのに時間がかかるかもしれませんが、お互いに思ったこと、考えたことを共有していただけたらと思います。

冬休みに向けて

《スマホ・SNS等の利用について》

これまでの学校だよりでも「スマホ・SNSの利用」についてお知らせしてきました。12月14日(火)には、「サイバー犯罪防止教室」を戸塚警察署生活安全課の方をお招きして開催しました。年末・年始に向け、ネット利用に関わってトラブルや犯罪行為に巻き込まれることなどが増えてくることが予想されます。ペアレンタルコントロール(保護者による管理)が大切でもあります。お子様のスマホやネット利用に関する危険性についてご家庭でもご確認をよろしくお願いいたします。

《不審者対応・トラブル防止について》

冬休み中にも、お子様が外で行動する可能性があるかと思えます。もし、不審者に関わって怖い思い、心配なことがあった場合には、躊躇なく、できる限り早い段階で地域の警察にご連絡をお願いします。学校でも子どもたちに指導をいたしますが、ご家庭でもご確認いただければと思います。にぎやかな場所では思いも寄らないトラブルも起こりがちです。場面によっては、危険を予測し、察知し、危険から自分を遠ざける、近寄らないといった自分自身の判断力がたいへん重要になります。

生徒のみなさんは、何かあった(ありそうな)場合には、次の行動をとりましょう。

- 人通りの多い道をまとまって帰る、逃げる、大きな声を出すなどの回避行動
- その場にいる大人に伝えること・助けを求めること

戸塚警察署：862-0110	栄警察署：894-0110
----------------	---------------

《交通事故に注意すること》

交通ルールやマナーを守って、歩行や自転車運転を行い、交通事故に十分に注意してください。このところ、交通事故が増えています。スマホや音楽プレイヤー利用による「ながら歩行、ながら運転」や、夜間の無灯火による自転車走行等は事故の原因になります。

《かけがえのない命を大切にすることについて》

長期の休みに自ら生命を絶ってしまう中学生のことが時として報道されます。中学生の時期は感受性が強く、様々に悩みや不安なことが多くなる時期です。さらに、昨年、今年と新型コロナウイルス感染症の拡大が、そうした気持ちにつながることもあるかもしれません。もし、孤独や不安、どうにもならない思いを感じた時には、ご家族や先生たち、それ以外にもみなさんの辛い思いを受け止めてくれる大人が大勢いることを忘れないでいてください。本年5月に文部科学大臣よりメッセージが出されています。一つは「児童生徒や学生等のみなさんへ」もう一つは「保護者や学校関係者等のみなさまへ」というものです。夏休み前に配付しました。学校ホームページにも掲載してあります。

《健康面に関すること》

新型コロナウイルス感染症だけではなく、インフルエンザに罹患しやすい時期になっています。冬休み中も、健康観察や手洗い、換気、そして外出する際には可能な限り感染リスクを減らす行動を心がけてください。冬休み中も記入できる「健康観察票」を配付しますので活用してください。発熱や風邪症状等、体調不良の場合には受診をしてください。

《新型コロナウイルス感染症に関わる連絡について》

新型コロナウイルス感染症の拡大防止について、日頃よりご家庭のみなさまのご理解とご協力をいただいていることにつきまして心より感謝申し上げます。冬休み中については、「お子様の感染が判明した場合」に次の様な連絡体制になりますのでよろしくお願いいたします。

- 12月27日(月)28日(火)、1月4日(火)5日(水)6日(木)
 - ・保護者より豊田中学校にご連絡をお願いします。
 - 12月29日(水)～1月3日(月)
 - ・お子様の感染を確認した区福祉保健センターから保護者に許諾を得た上で、横浜市教育委員会を經由して豊田中学校(管理職)に連絡が入ります。ご家庭より、直接学校に連絡していただくことはありません。
- ※ この間のご家族に関係することは、1月4日以降、学校にお知らせください。